

وَمَا لَنَا لَا نُؤْمِنُ بِاللَّهِ وَمَا جَاءَنَا مِنَ الْحَقِّ وَنَطْمَعُ أَنْ يُدْخِلَنَا رَبُّنَا مَعَ الْقَوْمِ الصَّالِحِينَ ﴿٨٤﴾ فَاتَّبَهُمُ اللَّهُ بِمَا قَالُوا جَنَّتِ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا وَذَلِكَ جَزَاءُ الْمُحْسِنِينَ ﴿٨٥﴾ وَالَّذِينَ كَفَرُوا وَكَذَّبُوا بِآيَاتِنَا أُولَٰئِكَ أَصْحَابُ الْجَحِيمِ ﴿٨٦﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لَا تَحْرِمُوا طَبِيبَ مَا أَحَلَّ اللَّهُ لَكُمْ وَلَا تَعْتَدُوا إِنَّ اللَّهَ لَا يُحِبُّ الْمُعْتَدِينَ ﴿٨٧﴾ وَكُلُوا مِمَّا رَزَقَكُمُ اللَّهُ حَلَلًا طَيِّبًا وَاتَّقُوا اللَّهَ الَّذِي أَنْتُمْ بِهِ مُؤْمِنُونَ ﴿٨٨﴾ لَا يُؤَاخِذُكُمُ اللَّهُ بِاللَّغْوِ فِي أَيْمَانِكُمْ وَلَكِنْ يُؤَاخِذُكُمْ بِمَا عَقَدْتُمُ الْأَيْمَانَ فَكَفَرْتُمْ بِهِ وَإِطْعَامُ عَشْرَةِ مَسْكِينٍ مِنْ أَوْسَطِ مَا تَطْعَمُونَ أَهْلِيكُمْ أَوْ كِسْوَتُهُمْ أَوْ تَحْرِيرُ رَقَبَةٍ فَمَنْ لَمْ يَجِدْ فَصِيَامُ ثَلَاثَةِ أَيَّامٍ ذَلِكَ كَفْرَةُ أَيْمَانِكُمْ إِذَا حَلَفْتُمْ وَاحْفَظُوا أَيْمَانَكُمْ كَذَلِكَ يُبَيِّنُ اللَّهُ لَكُمْ آيَاتِهِ لَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ﴿٨٩﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِنَّمَا الْخَمْرُ وَالْمَيْسِرُ وَالْأَنْصَابُ وَالْأَزْلُمُ رِجْسٌ مِنْ عَمَلِ الشَّيْطَانِ فَاجْتَنِبُوهُ لَعَلَّكُمْ تُفْلِحُونَ ﴿٩٠﴾

84 「わたしたちとアッラーへの信仰、かれの啓示でムハンマドがもたらした真理との間を分かたず原因は何なのか。わたしたちは預言者たちと信奉者たちといったアッラーに忠実でかれの懲罰を恐れる者たちとともに天国に入りたくて願っているのに。」

85 アッラーはかれらの信仰と真理認識に報いて川の流れる楽園にある城や木々に永遠に住まわせてくださる。それは誠意を尽くす者が真理に無条件で従うことへの報奨である。

86 アッラーとその使徒を信じようとせず、その使徒へ啓示したアッラーの様々な印(章句)を嘘と否定する者は、燃え盛る業火にずっと共にある者であり、そこから抜け出せることは永遠にないだろう。

87 信者よ、食べ物や飲み物や結婚といった許された楽しみを禁欲や勤行として禁じてはならない。アッラーが禁じた境界線を越えてもならない。本当にアッラーは境界線を越える者を好まれることはなく、むしろ憎まれるのである。

88 アッラーが糧としてもたらせてくださったものは、それがハラール(許されたもの)でよいものであれば食べ、横領されたものや不浄とされるものといったハラーム(禁じられたもの)であれば食べるはならない。命じられたことを果たし、禁じられたことを避けることでアッラーを畏れよ。かれこそがあなたがたの信じる御方であり、信仰があればかれを畏られるはずである。

89 信者よ、アッラーは故意にしたことでなければ咎めることはない。かれが責任を問うのはあなたがたが決意したことであり、心で決めておきながら約束を破ったことについてである。決意して誓約を口にしておきながらそれを破った場合は、三つのうちどれかで罪を帳消しにしてください。あなたがたの国の一般的な食事を10人の困窮者に半サーア分ずつを施すこと。(訳者注:「サーア」とは計量の呼称であり、学派間で若干の相違はあるが1サーア約2.6kgまたは約2,500mlを意味する)あるいは一般的に衣服とみなされる衣服を調達すること。あるいは信者の奴隷解放である。もしこうした三つのうちどれかの誓約破棄の贖いとするものが見つからなければ、3日間の断食で贖いとすればよい。これらが誓約破棄の贖いである。信者よ、もしアッラーにかけて誓いを立てておきながらそれを破ったときは、誓約をアッラーにかけての嘘としないように、アッラーにかけて誓いを立て過ぎないようにし、よいことを行い、誓約破棄の贖いをせよ。アッラーが誓約破棄の贖いについて明らかにされたように、ハラールやハラームについての規定も明らかにされた。きっとあなたがたは知らなかったことを教えてくださったことに対し、アッラーに感謝するだろう。

90 信者よ、理性を飛ばす酔わせるものや双方からの代償を含む賭け事、多神教徒が神聖視・崇拜の対象とする屠殺台の石、目に見えない世界について誓いを立てる際に求める火付け道具、これら全ては悪魔が見てくれよく飾る罪である。だからそれからは遠ざかれ。きっとあなたがたはこの世でも尊敬のある暮らしを送ることができ、あの世でも天国の恩恵を得られるだろう。

本諸節の功德:

- 糧のよいものを得て、不浄なものを捨てよというご命令。
- 心で決意しなかったことは責任を問われず、必ずするとか決してしないと心で決意したものは責任を問われる。
- 誓約破棄の贖いに関する説明。10人の困窮者に食事または衣服を施すこと、あるいは信者の奴隷を解放すること。前述のうちどれかを誓約破棄の贖いとして見つけられなければ、3日間の断食で誓約破棄の贖いとすればよい。
- 至高なるかれの御言葉『まことに酒と…』は酒について啓示された最後の一節であり、それを禁止する典拠である。

إِنَّمَا يُرِيدُ الشَّيْطَانُ أَنْ يُوقِعَ بَيْنَكُمُ الْعَدَاوَةَ وَالْبَغْضَاءَ
 فِي الْخَمْرِ وَالْمَيْسِرِ وَيَصُدَّكُمْ عَنْ ذِكْرِ اللَّهِ وَعَنِ
 الصَّلَاةِ فَهَلْ أَنْتُمْ مُنْتَهُونَ ﴿٩١﴾ وَأَطِيعُوا اللَّهَ وَأَطِيعُوا
 الرَّسُولَ وَاحْذَرُوا فَإِن تَوَلَّيْتُمْ فَأَعْلَمُوا إِنَّمَا عَلَى رَسُولِنَا
 الْبَلْغُ الْمُبِينُ ﴿٩٢﴾ لَيْسَ عَلَى الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ
 جُنَاحٌ فِيمَا طَعِمُوا إِذَا مَا اتَّقَوْا ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ
 ثَمَّ اتَّقَوْا ءَامَنُوا ثَمَّ اتَّقَوْا وَأَحْسَنُوا وَاللَّهُ يُحِبُّ
 الْمُحْسِنِينَ ﴿٩٣﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا لَبِئْسَ مَا كَفَرَ اللَّهُ بِشَيْءٍ
 مِنَ الصَّيْدِ تَنَالُهُ ءَيْدِيكُمْ وَرِمَاحُكُمْ لِيَعْلَمَ اللَّهُ مَنْ يَخَافُهُ
 بِالْغَيْبِ فَمَنْ ءَعْتَدَىٰ بَعْدَ ذَلِكَ فَهُوَ عَذَابُ الْيَمِّ ﴿٩٤﴾ يَا أَيُّهَا
 الَّذِينَ ءَامَنُوا لَا تَقْتُلُوا الصَّيْدَ وَأَنْتُمْ حُرْمٌ وَمَنْ قَتَلَهُ
 مِنْكُمْ مُتَعَمِّدًا فَجَزَاءٌ مِّثْلُ مَا قَتَلَ مِنَ النَّعَمِ يَحْكُمُ بِهِ ذَوَا
 عَدْلٍ مِنْكُمْ هَدْيًا بَالِغَ الْكَعْبَةِ أَوْ كَفَّرَهُ طَعَامَ مَسْكِينٍ
 أَوْ عَدَلَ ذَلِكَ صِيَامًا لِيُذَوَّقَ وَبِالْأَمْرِ عَفَا اللَّهُ عَمَّا
 سَلَفَ وَمَنْ عَادَ فَيَنْتَقِمْ اللَّهُ مِنْهُ وَاللَّهُ عَزِيزٌ ذُو انْتِقَامٍ ﴿٩٥﴾

⑨① 悪魔が酔わせるものや賭け事を美しく見せる目的は、心の中に敵愾心や憎悪を植え付けるためであり、アッラーを思い起こすことや礼拝から遠ざけるためである。信者よ、これらの悪行をやめられるか。それこそあなたがたに相応しいことである。だから直ちにやめよ。

⑨② イスラームの教えが命じることを果たし、禁じることを避けることでアッラーに従い、使徒に従うがよい。違反には気をつけよ。もしあなたがたが背いたとしても、われらの使徒にはアッラーから伝達を命じられたことの伝達が課せられているだけと知れ。すでにかれは伝達を果たし終えたのであり、あなたがたが導かれたならばそれはあなたがた自身のためであり、あなたがたが悪態をついたならばそれはあなたがた自身に対してのこととなる。飲酒禁止が啓示されたとき、信者たちの一部はそれが禁じられる前に亡くなった同胞のことを知りたいと願い、次の一節が下されたのである。

⑨③ アッラーを信じ、かれに近づくために善行を行う者で酒が禁じられる前にそれを飲んだ者に罪はない。(その他の)禁じられたことを避け、アッラーのお怒りに触れるのを恐れ、かれを信じ、善行を実践したならば、である。それからかれらはアッラーに見られているという感覚を高め、ついにはかれを見ているかのようにかれにお仕えするまでになった。アッラーはかれを見ているかのようにかれにお仕えする者を愛でられる。それはかれらがアッラーの常なる監督を感じるからであり、それが信者をして行いを最善のかたちで果たせるよう向かわせるのである。

⑨④ 信者よ、巡礼着姿でいる際にもたらされる陸地の狩りでアッラーはあなたがたを試されるだろう。あなたがたがそのうちの小さいものは自分の手で、大きいものは槍で得ようとする中、目には見えないがアッラーはご存知だという信仰の深さによって誰がかれを意識して狩りをするかをアッラーが知るため、すなわち僕たる人間自らが知ることで責任を問われる対象とするためである。よって大巡礼または小巡礼の巡礼着をまとった禁忌状態でありながら狩りをして一線を越えた者には、アッラーが禁じたことを犯したために復活の日には痛ましい懲罰があるだろう。

⑨⑤ 信者よ、大巡礼または小巡礼の巡礼着をまとった禁忌状態でありながら陸地の動物を狩りで殺めてはならない。故意に(狩りをして)殺めた者は、狩りをして殺めたものと同等の価値となるラクダや牛あるいは羊で報いなければならない。ムスリムたちの中から公平さで知られる二人の男に裁定をさせ、その二人が決めたことは実行される。マッカに運ばれて禁忌のある土地で屠畜による犠牲を捧げるか、その土地にいる貧しい者たちにそれと同価値の施しをし、それぞれ半サーアずつ与えるか、あるいは半サーアの食事に対して一日の断食をせよ。それは全て狩りで殺生をした者が自分の犯した殺生の結果を思い知るためである。アッラーはそれが禁止される前に禁忌のある土地で狩りをして殺生をすることや巡礼着をまとった禁忌状態で陸地の狩りをして殺生することといった、すでに過ぎたことについては大目に見てくださるが、禁止の後でそれを繰り返す者には懲罰で復讐されるだろう。アッラーは強靱で逆らうことのできない御方であり、誰もかれを妨げることはなく、お望みになりさえすればかれに逆らった者に復讐できるのである。

本諸節の功德:

- 禁じられていないかぎり、あるいは禁止が伝えられていないかぎり、人が責任を問われることはない。
- 大巡礼または小巡礼の巡礼着をまとった禁忌状態の狩猟禁止と狩りの殺生に対する贖いの説明。
- 禁止におけるアッラーの英知には、僕たる人間に試練を与えることと、かれら人間の中(中で従う者と従わない者の)ふるい分けがあり、贖いにおいては防止と禁止がある。

أَجَلٌ لَكُمْ صَيْدُ الْبَحْرِ وَطَعَامُهُ مَتَاعًا لَكُمْ وَلِلسَّيَّارَةِ
 وَحُرْمَ عَلَيْكُمْ صَيْدُ الْبَرِّ مَا دُمْتُمْ حُرْمًا وَاتَّقُوا اللَّهَ الَّذِي
 إِلَيْهِ تُحْشَرُونَ ﴿٩٦﴾ جَعَلَ اللَّهُ الْكَعْبَةَ الْبَيْتَ الْحَرَامَ
 قِيَمًا لِلنَّاسِ وَالشَّهْرَ الْحَرَامَ وَالْهَدْيَ وَالْقَلْبَدَّ ذَلِكَ لِيَتَعْلَمُوا
 أَنَّ اللَّهَ يَعْلَمُ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَأَنَّ اللَّهَ بِكُلِّ
 شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿٩٧﴾ أَعْلَمُوا أَنَّ اللَّهَ شَدِيدُ الْعِقَابِ وَأَنَّ اللَّهَ
 غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿٩٨﴾ مَا عَلَى الرَّسُولِ إِلَّا الْبَلَاغُ وَاللَّهُ يَعْلَمُ مَا
 تُبْدُونَ وَمَا تَكْتُمُونَ ﴿٩٩﴾ قُلْ لَا يَسْتَوِي الْخَبِيثُ وَالطَّيِّبُ
 وَلَوْ أَعْجَبَكَ كَثْرَةُ الْخَبِيثِ فَاتَّقُوا اللَّهَ يَا أُولِي الْأَلْبَابِ
 لَعَلَّكُمْ تُفْلِحُونَ ﴿١٠٠﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لَا تَسْأَلُوا عَن
 أَشْيَاءَ إِن تَبَدَّلَ لَكُمْ تَسْوِكُمْ وَإِن تَسْأَلُوا عَنْهَا حِينَ يُنزَلُ
 الْقُرْآنُ إِنَّ تَبَدَّلَ لَكُمْ عَفَا اللَّهُ عَنْهَا وَاللَّهُ غَفُورٌ حَلِيمٌ ﴿١٠١﴾
 قَدْ سَأَلَهَا قَوْمٌ مِّن قَبْلِكُمْ ثُمَّ أَصْبَحُوا بِهَا كَافِرِينَ ﴿١٠٢﴾ مَا جَعَلَ
 اللَّهُ مِنْ بَيْعِرَةٍ وَلَا سَائِبَةٍ وَلَا وَصِيلَةٍ وَلَا حَامٍ وَلَكِنَّ الَّذِينَ
 كَفَرُوا يَفْتَرُونَ عَلَى اللَّهِ الْكَذِبَ وَأَكْثَرُهُمْ لَا يَعْقِلُونَ ﴿١٠٣﴾

96 アッラーは水中の漁や海から打ち出されたものは、生きながらであれ死んだ状態であれ、定住者や旅行者が糧として役立てられるものとして許可された。一方、大巡礼または小巡礼の巡礼着をまとった禁忌状態であるかぎり陸地の狩りは禁じられた。だから命じられたことを果たし、禁じられたことを避けることでアッラーを意識せよ。かれにのみあなたがたは復活の日に帰り行くのであり、かれは行いに応じて報いられるのである。

97 アッラーは禁忌のあるカバ殿を人々のために立ち続けるものとされ、そこでは礼拝や大小の巡礼といった宗教的な利益が得られ、禁忌のある土地での安全や全ての成果物が持ち寄られるといった世俗的な利益が得られるものとされた。また、かれは禁忌のある月～それはズルカアダ、ズルヒジャ、アルムハラム、ラジャブである～をもうけられ、そこでの殺生からの安全や犠牲、禁忌のある土地へ運ばれるものだからと手出しできないような気持ちにさせる産物などで人々のためにあるものとされた。それこそアッラーが恵んでくださったものであり、アッラーが天地にあるもの全てを知る御方であるとあなたがたが知るためである。かれのそうした益をもたらし、害を未然に防ぐための教えは、僕たる人間のためになることをかれが熟知しておられる証である。

98 知りなさい、人々よ。アッラーは背く者には懲罰の厳しい御方だが、悔い改める者にはよく赦してくださる、慈悲深い御方である。

99 使徒の責任はアッラーから伝達を命じられたことを伝達するのみであり、人々を導きへと成功させることを問われはしない。それはアッラーの御手のみあり、あなたがたが導きであれ迷いであれ、表に見せることも内に秘めることも知っておられ、それに応じて報いられるのである。

100 言いなさい、使徒よ。「たとえ不浄な者の数の多さに感嘆したとしても、あらゆることで不浄な者と善良な者が等しいなどということはありません。数が多いのは徳を示すものではないのです。だから理性ある人々よ、不浄なものを捨て、善良なことを行うことで、アッラーを意識してください。きっと天国を得られるでしょう。」

101 信者よ、必要のないこと、あなた方の宗教に関して助けとなることではないものをあなた方の使徒に尋ねてはならない。明らかにされれば、困難なだけにあなた方にとって不都合なこととなるだろう。もしあなたがたが訊くのを禁じられた事柄を使徒に啓示が下されるときに訊けば、明らかにされるだろう。それはアッラーにとって容易なことである。クルアーンが沈黙したことについてアッラーは咎められないのだから、あえて尋ねてはならない。もしそれらについて訊いてしまえば、それらの規定に関する責任遂行が課せられることになる。アッラーは僕たちが悔い改めればその罪をよくお赦しくださる御方であり、その咎めに対しては温和な御方である。

102 以前の者たちのある民は実際にそのようなことを訊き、責任遂行を命じられるとそれを行わなかったため、それが原因で不信仰者となった。

103 アッラーは家畜を許可された。多神教徒が偶像のために自分たちに禁じたものを禁じられてはいない。ある数の子を産むと耳の切られるラクダであるバヒーラや、ある年齢に達すると偶像のために放置されるサーイバというラクダ、メスを産み続けたワスイーラというラクダ、何頭か子どものできたハーミーというラクダのことである。不信仰な者は嘘を吐いてアッラーが言及されたものを禁じたと騙(かた)るが、不信仰者の多くは真理と虚偽、ハラルとハラームの違いも区別できないのである。

本諸節の功徳:

- アッラーの教えの基本は、僕たる人間がこの世かつあの世でも役立てられるものを実現し、害を払いのけるためにもたらされた。
- 数の多さは感嘆に値しないということ。数が多いのは、それが許されたものや善良なものであることの証ではない。証はイスラームの教えの規定に込められているのである。
- (宗教的な事柄に関する)質問者の礼儀は、ある一定の範囲に質問を留めておくことである。よって本人に必要なことや特に目的のないことを訊いてはならない。
- (ある数の子を産むと耳の切られるラクダである)バヒーラや(ある年齢に達すると偶像のために放置されるラクダである)サーイバ、(メスを産み続けたラクダである)ワスイーラ、(何頭か子どものできたラクダである)ハーミーといった家畜で禁じられたものがあるなどと勝手な思い込みの主張を唱える多神教徒のやり方の非難。

وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ تَعَالَوْا إِلَىٰ مَا أَنْزَلَ اللَّهُ وَإِلَىٰ الرَّسُولِ قَالُوا حَسْبُنَا مَا وَجَدْنَا عَلَيْهِ عِبَادَ اللَّهِ أُولَٰئِكَ هُمُ الَّذِينَ لَا يَعْلَمُونَ شَيْئًا وَلَا يَهْتَدُونَ ﴿١٢٤﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا عَلَيْكُمْ أَنْفُسَكُمْ لَا يَضُرُّكُمْ مَن ضَلَّ إِذَا اهْتَدَيْتُمْ إِلَى اللَّهِ مَرْجِعُكُمْ جَمِيعًا فِيمَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿١٢٥﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا شَهَادَةُ بَيْنِكُمْ إِذَا حَضَرَ أَحَدُكُمُ الْمَوْتُ حِينَ الْوَصِيَّةِ اثْنَانِ ذَوَا عَدْلٍ مِّنكُمْ أَوْ آخَرَانِ مِنْ غَيْرِكُمْ إِنْ أَنتُمْ صَرَيْتُمْ فِي الْأَرْضِ فَأَصْبَحْتُمْ مَصِيبَةُ الْمَوْتِ تَحْسِبُونَهُمَا مِنْ بَعْدِ الصَّلَاةِ فَيُقْسِمَانِ بِاللَّهِ إِنْ أَرَبْتُمْ لَا نَشْتَرِي بِهِ ثَمَنًا وَلَوْ كَانَ ذَا قُرْبَىٰ وَلَا نَكْتُمُ شَهَادَةَ اللَّهِ إِنَّا إِذًا لَمِنَ الْأَثِمِينَ ﴿١٢٦﴾ فَإِنْ عُرِثَ عَلَيْهِمَا اسْتَحَقَّا إِثْمًا فَآخَرَانِ يَقُومَانِ مَقَامَهُمَا مِنَ الَّذِينَ اسْتَحَقَّ عَلَيْهِمُ الْأَوْلِيَانِ فَيُقْسِمَانِ بِاللَّهِ لَشَهَدَتْهُمَا الْحَقُّ مِنْ شَهَادَتِهِمَا وَمَا أَعْتَدْنَا إِنَّا إِذًا لَمِنَ الظَّالِمِينَ ﴿١٢٧﴾ ذَلِكَ أَدْنَىٰ أَنْ يَأْتُوا بِالشَّهَادَةِ عَلَىٰ وَجْهَيْهَا أَوْ يَحْفَاقُوا أَنْ تَرُدَّ آيْمُنُ بَعْدَ آيْمَانِهِمْ وَاتَّقُوا اللَّهَ وَأَسْمِعُوا لِلَّهِ يُهْدِيَ الْقَوْمَ الْفَاسِقِينَ ﴿١٢٨﴾

⑫④ 家畜のあるものを禁止するという嘘をアッラーに対して騙る者たちが、「ハラームからハラールを知るために、クルアーンで啓示されたもの、使徒の慣行へと来たれ」と言われると、「信条や言動についてはわたしたちの先祖から受け継いだもので十分だ」と言う。かれらの先祖が何も知らず、真理へ導かれることもなかったのに、一体いかに十分足り得ようか。よってかれらに従うのはより無知でより迷った者の他になく、かれらは無知で道を踏み誤った者なのである。

⑫⑤ 信者よ、責任を問われるのは、自分自身である。だから自分のためになることに励め。あなたがた自身が導かれていれば、迷った人やあなたがたの呼びかけに応えなかった者があなたがたを害することはない。あなたがたにとって導きとなるものには、良識を命じ、邪悪を禁じることがある。復活の日にあなたがたの帰結はアッラーにのみあり、かれは生前の行いを知らせ、それに応じて報いられるのである。

⑫⑥ 信者よ、死の予兆が現れることで誰かに死の訪れが近づいたなら、遺言への証人をムスリムで公平な男二人、あるいはムスリムが見つからなければ不信仰者の男二人を用意せよ。もし旅の道中で死に襲われるか、二人の証言に疑念が生じたなら、礼拝の後で二人を立ち止まらせてアッラーにかけて誓わせるがよい。「アッラーから与えられた運を代償で売らないでください。親族を鼻屑せず、アッラーのための証言を隠さないでください。」もしそれをすれば、二人ともアッラーに対して罪を犯す反抗者となってしまうのである。

⑫⑦ 誓いの後で証言や誓約における嘘が発覚し、二人の裏切りが明らかになったなら、死の間際にある人にとっていちばん近い二人に真実の証言をさせるか、誓いを立てさせよ。そうしてかれらの誠実さと信頼への証言よりも、かれらの嘘と裏切りへのわたしたちの証言の方が正しいことをアッラーにかけて二人は誓いを立てるのであ

る。「わたしたちの誓いは嘘ではない。もし嘘の証言をしたならば、アッラーの定めた一線を越える不義をなす者たちとなってしまうだろう。」

⑫⑧ 証言への疑念で礼拝の後に誓いを立てさせ、二人の証言に反論するという前述の行いは、イスラームの教えの規定になかった証言のあり方により近い。だから証言を変えたり、入れ替えたり、騙したりしてはならない。またそれはその二人が誓約をした後で遺族の誓約を返し、かれらが二人の証言とは反対のことを誓うことで二人の嘘が暴露されるのを恐れるのにより近い。だから証言や誓約における嘘や裏切りをやめることでアッラーを意識せよ。承認を伴う聞き従い方であなたがたが命じられたことをよく聞きなさい。アッラーがその忠誠から外れ出た者を成功させることはない。

本諸節の功德:

- 僕たる人間が自分自身に対してアッラーへの忠誠を常とし、できるかぎり善行を勧め悪行を引き留める努力をしたならば、誰の迷いも害することはなく、特に迷妄の民など他の人について問われることはない。
- 公平な証言による体裁を整えた遺言の書き残しを推奨。
- 遺言に関する証人尋問のイスラーム的形式の説明。

*يَوْمَ يَجْمَعُ اللَّهُ الرُّسُلَ فَيَقُولُ مَاذَا أُجِبْتُمْ قَالُوا لَا عِلْمَ لَنَا
 إِنَّكَ أَنْتَ عَلَّمَهُ الْغُيُوبَ ﴿١٢٦﴾ إِذْ قَالَ اللَّهُ لِيَعْقِيبَ ابْنَ مَرْيَمَ
 اذْكُرْ نِعْمَتِي عَلَيْكَ وَعَلَىٰ وَالِدَتِكَ إِذْ أَيَّدتُّكَ بِرُوحِ
 الْقُدُسِ تُكَلِّمُ النَّاسَ فِي الْمَهْدِ وَكَهْلًا وَإِذْ عَلَّمْتُكَ
 الْكِتَابَ وَالْحِكْمَةَ وَالتَّوْرَةَ وَالْإِنْجِيلَ وَإِذْ تَخَافُ
 مِنَ الطَّاغُوتِ كَهَيْئَةِ الطَّيْرِ بِأَذْنِي فَتَنفُخُ فِيهَا فَتَكُونُ
 طَيْرًا بِأَذْنِي وَتَبْرِئُ الْأَكْمَامَ وَالْأَبْرَصَ بِأَذْنِي وَإِذْ تُخْرِجُ
 الْمَوْتَىٰ بِأَذْنِي وَإِذْ كَفَفْتُ بَنِي إِسْرَائِيلَ عَنْكَ إِذْ
 جِئْتَهُم بِالْبَيِّنَاتِ فَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْهُمْ إِنْ هَذَا
 إِلَّا أَسْحارٌ مُّبِينٌ ﴿١٢٧﴾ وَإِذْ أَوْحَيْتُ إِلَى الْخَوَارِجِ أَنْ آمِنُوا
 بِي وَبِرُسُولِي قَالُوا أَمَّا أُمَّتٌ أَشْهَدُ بَأَنَّنا مُسْلِمُونَ ﴿١٢٨﴾
 إِذْ قَالَ الْخَوَارِجُ لِيَعْقِيبَ ابْنَ مَرْيَمَ هَلْ يَسْتَطِيعُ رَبُّكَ
 أَنْ يُنَزِّلَ عَلَيْنَا مَائِدَةً مِنَ السَّمَاءِ قَالَ اتَّقُوا اللَّهَ إِنْ كُنْتُمْ
 مُؤْمِنِينَ ﴿١٢٩﴾ قَالُوا نُرِيدُ أَنْ نَأْكُلَ مِنْهَا وَتَطْمَئِنَّ قُلُوبُنَا
 وَتَعْلَمَ أَنْ قَدْ صَدَقْتَنَا وَنَكُونَ عَلَيْهَا مِنَ الشَّاهِدِينَ ﴿١٣٠﴾

126 人々よ、アッラーが全ての使徒を呼び集め、「われがあなたを遣わしたそれぞれの民はあなたがたになんと答えたか」と言う復活の日のことを思い起こせ。かれらは回答をアッラーに任せて言うのである。「わたしたちは知識はありません。わたしたちの主よ、それを知るのはあなたであり、目に見えない世界を知るのはあなただけです。」

127 アッラーがイーサーに語りかけて言ったときのことを思い起こせ。「マルヤムの子イーサーよ、父親なしであなたが創造したときのわれの恩恵を思い起こせ。あなたの母親マルヤムを同時代の女性たちの中からわれが選んだときのあなたの母親への恩恵を思い起こせ。あなたがまだ乳飲み子であったときにわれがジブリール(平安あれ)で支えつつ、人々に話しかけてアッラーにいざない、われがあなたをかれらのもとへ遣わしたことをまだあなたが無力なときにかれらへ語らせたことを。また、われがあなたに筆を教えるという恩恵をもたらし、ムーサーに啓示した律法書を教え、あなたに啓示した福音書を教え、教えの中の様々な秘密や教訓、英知を教えたことを。また、われがあなたへ与えた恩恵には、あなたが泥で鳥を形作り、息を吹き込むと鳥になったこと、生まれながら目の見えない者を癒し、ハンセン(らい)病患者を癒して健全な皮膚としたこと、あなたがアッラーに蘇生を祈ることによって死者を蘇らせたことがある。それは全てわれの許可によるものである。また、われのあなたへの恩恵には、あなたがイスラエーイルの民に明らかな奇跡をもたらしたことであなたを信じようとせず、「イーサーがもたらしたものは明らかな魔術に過ぎない」と言ってあなたを殺そうとしたときに、あなたを守ったことがある。

128 われのあなたへの恩恵としてあなたに支援者をもたらし、使徒たちにわれとあなたを信じさせ、それに応えて、「わたしたちは信じます。ですから主よ、わたしたちがあなたに万事を委ねるムスリムであり、応答する者であることを見届けてください。」と言ったときのことを思い起こせ。

129 側近の使徒たちが、「あなたの主はあなたがかれに祈れば天から食卓を下すことができますか。」と言い、イーサーがそれに答えて大事なのはアッラーを意識することであって、かれらの願いは災いの種となるかもしれないからそれを捨てるように言い、「もしあなたがたが信仰する者ならば、糧の頼み事については主に任せなさい。」と言ったときのことを思い起こせ。

130 側近の使徒たちはイーサーに言った。「わたしたちはその食卓から食事をしたいのです。アッラーの御力の完全さと、あなたがかれの使徒であることに心を安堵させ、あなたがアッラーの御許からもたらしたものに嘘偽りはないと確信し、ここに居合わせなかった人たちへの証言者になりたいのです。」

本諸節の功德:

- 復活の日にアッラーが貴賤を問わず被造物全てを一同に集めるということ。
- メシアたる人の人間性の事実と、死者の蘇生や目の見えない人の視力回復、ハンセン(らい)病患者の癒しといった、アッラーがかれの手を通してもたらした物理的な印が事実であること。
- 預言者たちの奇跡的な印は信奉者の心を不動のものとし、違反する者を黙らせるためであって、自分勝手に行うものではなく、至高のアッラーの許可を得てなされるものであることの説明。

قَالَ عِيسَى ابْنُ مَرْيَمَ اللَّهُمَّ رَبَّنَا أَنْزِلْ عَلَيْنَا مَائِدَةً مِنَ السَّمَاءِ
تَكُونُ لَنَا عِيدًا لِأَوَّلِنَا وَآخِرِنَا وَآيَةً مِنْكَ وَأَرْزُقْنَا وَأَنْتَ
خَيْرُ الرَّزُقِينَ ﴿١١٤﴾ قَالَ اللَّهُ إِنِّي مَنَّتُ عَلَيْكُمْ فَخُفُّوا رُءُوسَكُمْ
مِنْكُمْ قَاتِلِي أَعَدُّهُ وَعَدَابًا لَا أَعْدِيهِ وَأَحَدًا مِنَ الْعَالَمِينَ ﴿١١٥﴾
وَإِذْ قَالَ اللَّهُ لِيَعِيسَى ابْنَ مَرْيَمَ أَنْتَ قَلْتُ لِلنَّاسِ اتَّخِذُونِي
وَأُمَّيِّ الْهَيْلِينَ مِنْ دُونِ اللَّهِ قَالَ سُبْحَانَكَ مَا يَكُونُ لِي أَنْ أَقُولَ
مَا لَيْسَ لِي بِحَقِّ إِنْ كُنْتُ قُلْتُهُ وَقَدْ عَلِمْتَهُ وَعَلَّمَ مَا فِي نَفْسِي
وَلَا أَعْلَمُ مَا فِي نَفْسِكَ إِنْ أَنْتَ عَلَّمَهُ الْغُيُوبَ ﴿١١٦﴾ مَا قُلْتُ لَهُمْ
إِلَّا مَا أَمَرْتَنِي بِهِ إِنْ أَعْبُدُ إِلَّا اللَّهَ رَبِّي وَرَبَّكُمْ وَكُنْتُ عَلَيْهِمْ
شَهِيدًا مِمَّا دُمْتُ فِيهِمْ فَلَمَّا تَوَقَّيْتَنِي كُنْتُ أَنْتَ الرَّقِيبَ عَلَيْهِمْ
وَأَنْتَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ شَهِيدٌ ﴿١١٧﴾ إِنْ تُعَذِّبْهُمْ فَإِنَّهُمْ عِبَادُكَ وَإِن
تَغْفِرْ لَهُمْ فَإِنَّكَ أَنْتَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿١١٨﴾ قَالَ اللَّهُ هَذَا يَوْمُ يَنْفَعُ
الصَّادِقِينَ صِدْقُهُمْ لَهُمْ جَنَّاتٌ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ
فِيهَا أَبَدًا رَضِيَ اللَّهُ عَنْهُمْ وَرَضُوا عَنْهُ ذَلِكَ الْفَوْزُ الْعَظِيمُ ﴿١١٩﴾ اللَّهُ
مَلِكُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا فِيهِنَّ وَهُوَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿١٢٠﴾

①④ イーサーはかれらの願いに応え、アッラーに祈りつつ言った。「主よ、わたしたちのもとに食卓を下してください。それが下された日を、今生きているわたしたちとやがてわたしたちの後に来る者たちのために、あなたに感謝する祝いの日として尊びます。それはあなたの唯一性やわたしが遣わされたことの正しさを明らかにする証や印となるでしょう。あなたにお仕える上で助けとなる糧をお恵みください。主よ、あなたこそ糧を与える者の中でも最善の御方です。」

①⑤ そうしてアッラーはイーサーの祈りに応じて仰せられた。「われはあなたが下すように頼んだこの食卓を下そう。よってそれを下した後で不信仰に陥る者は己以外の者を責めてはならない。われは他の誰も苦しめないような厳しい苦しめ方をするだろう。明らかな印を見ておきながら、意図的に不信仰を選んだからである。」こうしてアッラーは約束通りかれらのもとにそれを下されたのである。

①⑥ アッラーが復活の日にマルヤムの子イーサーに語りかけて仰せられるときのことを思うがよい。「マルヤムの子イーサーよ、あなたは人々に『わたしとわたしの母をアッラーとは別に崇められる存在としてください。』と言ったのか。」イーサーは主の完全さを讃えながら言った。「わたしには真理の他かれらに言う資格はありません。たとえもしわたしがそれを言ったとしても、あなたはそれをご存知のはずです。何一つあなたから隠し通すことはできないのですから。あなたはわたしが胸に秘めることをご存知ですが、わたしはあなたが抱くことを知りません。あなただけが目に見えないもの全て、表裏全てを知っておられます。」

①⑦ イーサーは主に向かって言った。「わたしはあなたが人々に命じるようにわたしに命じられたこと、信仰行為はあなたにのみ捧げよということしか言っておりません。わたしはかれらと共にいる間ずっとかれらの言説を見てい

ました。それからあなたがかれらの間でのわたしの滞在期間を、わたしを生きながらにして天へと昇らせることで終わらせてからは、主よ、あなたこそかれらの行いを見守る御方でした。あなたは全てのことを見届ける御方であり、あなたから見えなくなるものは何もなく、わたしがかれらに言ったことも、わたしの後でかれらが言ったことも、あなたには少しも不鮮明なことはないはずです。

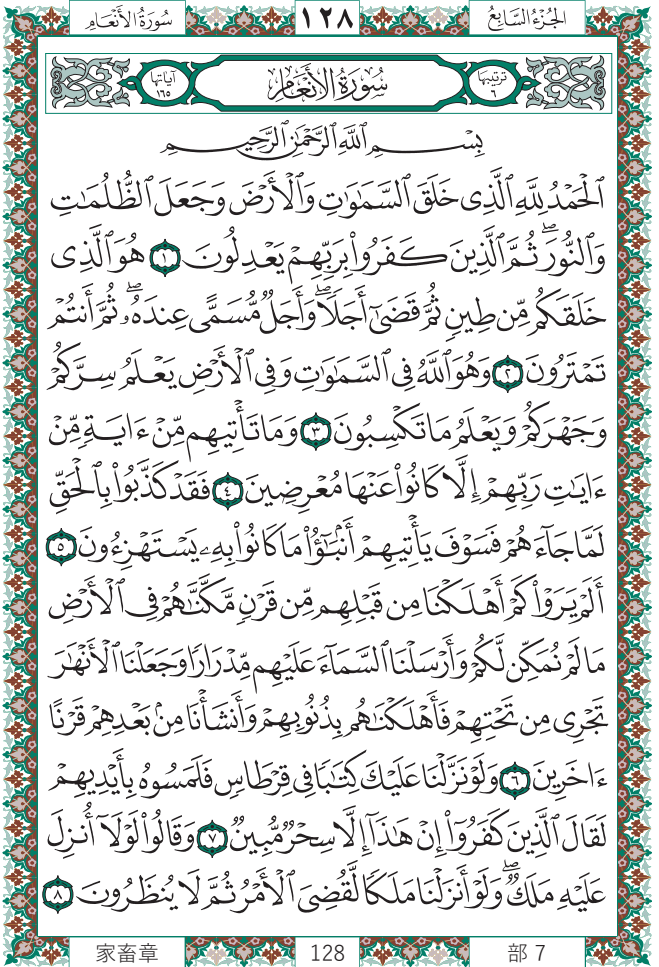
①⑧ もしあなたがかれらを罰するなら、主よ、かれらはあなたの僕であり、お望みのことをなさるだけです。ですが、もしかれらのうち信じた者に赦しをお恵みくださるなら、あなたからそれを妨げることのできる存在はありません。あなたこそ力並ぶ者なき御方であり、ご計画において英明なる御方。」

①⑨ アッラーはイーサーに仰せられた。「これぞ心持ちや言動の誠実な者たちの誠実さが役立つ日である。かれらには多くの城や木々のそばを数々の川が流れる楽園があり、永遠にそこに住むことができるだろう。」死がかれらを襲うことはなく、アッラーがかれらに満足して下さり、お怒りになることは永遠になく、かれら自身も永続的な恩恵の前に満足する。そうした報奨とご満悦こそが偉大な勝利であり、それ以上の勝利はない。

①⑩ アッラーにのみ天地の王権はあり、かれこそがそれらの創造主であり、諸事を司る御方であり、全ての生きとし生けるもの所有権を持つ。かれには全てのことが可能であり、かれを遮るものは何一つない。

本諸節の功德:

- 明らかな立証の後でなお不信仰にこだわり、信仰拒絶を選ぶ者全てに対してアッラーは警告された。
- メシアたる人が、自分のことを神または神の子または主であることや神であることを唱えたというキリスト教徒の主張からは無実であること。
- アッラーは復活の日に使徒たちのうち偉大かつ高貴な人ですら尋問をする。ならばそれ以下の人たちに対してはどうかであろうか。
- 誠実であることの地位の高さと、その特性を培った人へのアッラーの称賛およびその特性を培った人にとって復活の日に誠実さがいかに役立つかの説明。



本章の趣旨:

タウヒード(純粋な唯一神信仰)教義の確定と多神教徒の錯誤への批判。

説明:

① 完璧な描写、究極の美への愛と讃美は、前例なしに天地を造り、昼夜を交互するものとして造り、夜は暗くし、昼は明るくした御方、アッラーのためにある。それでも不信仰に陥った者は、かれとは別の存在を同列に並べ立てる。

② 人々よ、かれこそはあなたがたを造った御方であり、父祖アダムを泥で造り、この世での滞在期間を定め、そしてあなたがたを復活させるまでのかれにしかわからない別の期間を定められた御方である。それでもあなたがたは復活の可否についてかれの力を疑う。

③ かれこそは天地で本当に崇められるべき存在であり、不鮮明なものは何一つなく、かれはあなたがたの心持ちや言動の表裏をご存知であり、それに応じて報いられるのである。

④ あなたが多神教徒に主の御許から証をもたらしても、無関心にそれを捨て去るだけである。アッラーが唯一であることを明らかに示す証拠やその使徒たちの誠実さを示す様々な印がやって来たにもかかわらず、かれらは少しも顧みることなく背き去った。

⑤ かれらはそうした明らかな証拠や論拠だけではなく、より明らかなものにも背を向けた。クルアーンでムハンマドがもたらしたものを嘘と否定したのである。復活の日に懲罰を目の当たりにしたときに、かれらは生前馬鹿にしていたことが真実なのを知るだろう。

⑥ 不信仰者は、不義の徒を滅ぼす際のアッラーのやり方を知らないのか。アッラーは以前にも多くの民を滅ぼした。未曾有の勢力や繁栄の要因を与えられ、続けざまに雨を降り注がれ、住まいの下を川が流れるほどにされながら、アッラーに背き、犯した罪によって身を滅ぼし、かれらの後に別の民を創造された。

⑦ 使徒よ、もしわれらがあなたへ紙に書かれた書を下し、自分の両目で目撃し、その書に手で触れて確認したとしても、かれらがそれを信じることはなく、「明らかな魔術に過ぎないから、わたしたちが信じることは決してない。」と言って否定し、認めはしないだろう。

⑧ 不信仰者は言う。「もしアッラーがムハンマドと一緒に天使を遣わし、かれが使徒であることを証言したなら、わたしたちは信じただろう。」万が一われらが天使をかれらの望んだ姿で遣わしてなお信じなかったならかれらを滅ぼしていただろうし、いざ降臨すれば悔悟の猶予もなかっただろう。

本諸節の功德:

- 不信仰者の反対の激しさ。物理的に立証されているにもかかわらず、いかに不信仰にこだわるかの説明。
- 過去の者たちの滅びの理由を知るためのアッラーの慣行についての観察と注意喚起。
- アッラーの僕たちへの慈悲の一つに、天使たちから使徒を遣わさなかったということがある。もしそうであった場合、悔悟の猶予すらなかったからである。

وَلَوْ جَعَلْنَاهُ مَلَكَ لَجَعَلْنَاهُ رَجُلًا وَلَلَبَسْنَا عَلَيْهِمْ مَا يَلْبَسُونَ ﴿٩﴾ وَلَقَدْ أَسْتَهْزَيْتُمْ بِرُسُلِنَا مِنْ قَبْلِكَ فَحَاقَ بِالَّذِينَ سَخِرُوا مِنْهُمْ مَا كَانُوا بِهِ يَسْتَهْزِئُونَ ﴿١٠﴾ قُلْ سِيرُوا فِي الْأَرْضِ ثُمَّ أَنْظِرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الْمُكْذِبِينَ ﴿١١﴾ قُلْ لِمَنْ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ قُلْ لِلَّهِ كَتَبَ عَلَى نَفْسِهِ الرَّحْمَةَ لِيَجْزِيَكُمْ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ لِأَرْبَابٍ فِيهِ الَّذِينَ خَسِرُوا أَنْفُسَهُمْ فَهُمْ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿١٢﴾ وَاللَّهُ مَأْسُكٌ فِي اللَّيْلِ وَالنَّهَارِ وَهُوَ السَّمِيعُ الْعَلِيمُ ﴿١٣﴾ قُلْ أَعْبَدُوا اللَّهَ أَنْتُمْ وَإِنِّي فَاطِرُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَهُوَ يُطْعِمُهُ وَلَا يَطْعَمُهُ قُلْ إِنِّي أُمِرْتُ أَنْ أَكُونَ أَوَّلَ مَنْ أَسَلَهُ وَلَا تَكُونَنَّ مِنَ الْمُشْرِكِينَ ﴿١٤﴾ قُلْ إِنِّي أَخَافُ إِنْ عَصَيْتُ رَبِّي عَذَابَ يَوْمٍ عَظِيمٍ ﴿١٥﴾ مَنْ يَصْرِفْ عَنْهُ يَوْمَئِذٍ فَقَدْ رَحِمَهُ وَذَلِكَ الْفُورُ الْمُمِينُ ﴿١٦﴾ وَإِنْ يَمَسَّكَ اللَّهُ بِضُرٍّ فَلَا كَاشِفَ لَهُ إِلَّا هُوَ وَإِنْ يَمَسَّكَ بِخَيْرٍ فَهُوَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿١٧﴾ وَهُوَ الْقَاهِرُ فَوْقَ عِبَادِهِ وَهُوَ الْحَكِيمُ الْخَبِيرُ ﴿١٨﴾

一に忠実にお仕える最初の者となるよう命じられ、**かれ**と共に別の存在を並べ立てる者の一人にはならないよう命じられたのである。」

⑨ 言いなさい、使徒よ。「わたしは恐ろしいのです。アッラーに背き、禁じられたことを犯してしまうか、命じられた善行を果たさないことで、復活の日に偉大な懲罰で苦しめられるかもしれないからです。」

⑩ 復活の日にアッラーがその懲罰から遠ざける者はそのお慈悲を得る者であり、懲罰からの救済こそが明白な勝利なのである。

⑪ アーダムの子(人間)よ、もしアッラーの御許から試練があなたに見舞われたなら、**かれ**のほかに試練を取り除ける存在はなく、もし善良なことが起これば、それを妨げる者はない。**かれ**の恩恵を拒む者はなく、全能な御方であり、**かれ**を遮るものは何一つないのである。

⑫ **かれ**こそは僕たる人間を打ち負かし、恥辱を与え得る御方であり、**かれ**を遮るものは何一つないほどに全ての側面から高みにおられる御方である。誰も**かれ**を打ち負かすことはできないが、全ての存在は**かれ**に聞き従う。完全な**かれ**に相応しいかたちで僕たちの上におられ、その創造、計画、教えにおいて英明かつ全てに精通する御方なので、何一つ不鮮明なものはない。

本諸節の功德:

- 派遣先のタイプの中から使徒を遣わされたアッラーの英知の説明。よりよく聞いて理解し、受け入れられるためである。
- 過去に背いた者たちの慣行が繰り返されるのを観察し、懲罰におけるアッラーの慣行が繰り返されるのを見比べよ、といういざない。
- 違反行為とその結果を恐れるべき義務。
- 人間が見舞われる試練を変えられるのはアッラーのほかになく、よいことを妨げられるのもアッラーのほかにない。かれの美德を返し、その恩恵を妨げるものはない。

⑨ 万が一**われら**が使徒を天使としたならば、直接見聞きできるような男の姿としたらう。創造されたままの天使の姿ではそれができず、男の姿としてもなおかれらには疑わしいものとなったらう。

⑩ これらの者たちが天使派遣の類みで嘲笑ったとしても、以前のいくつもの共同体がその使徒たちを嘲笑ったのである。やがてかれらは、自分たちがかつて否定して嘲笑っていた懲罰で囲まれたのであった。

⑪ 言いなさい、使徒よ。これらの否定者たちに。「地上を旅してアッラーの使徒たちを否定した者の成れの果てがどうであったかをよく見てください」と。権勢を誇った後にアッラーの懲罰が降りかかったのである。

⑫ これらに言いなさい、使徒よ。「天地の王権は誰のものでしょうか」と。言いなさい、「それらは全てアッラーのものでしょ」と。**かれ**はその僕たちへの恩恵により自らに慈悲を常と定められた。だからたとえかれらが集まり皆が疑いのない復活の日に悔い改めなかったとしても、**かれ**は懲罰を急かさないのである。不信仰によって自らを損なった者は信じようとせず、己を救うこともない。

⑬ アッラーにのみ、夜と昼の落ち着く全てのものの王権はある。**かれ**こそは全ての言葉を聞き、全ての行いを知る御方であり、それらに応じて報いられるのである。

⑭ 使徒よ、アッラーのほかに偶像などを崇める多神教徒に言いなさい。「アッラーのほかに助けを求めることが考えられるでしょうか。」**かれ**こそは天地を前例なしに創造された御方であり、それらの創造が先を越されたことはない。**かれ**こそはお望みの者に糧を与えるが、**かれ**に糧を与える者は誰一人としていない。**かれ**は満ち足りた存在であって、僕たちを必要とするわけではないが、僕たる人間は**かれ**を必要とするのである。言いなさい、使徒よ。「完全なわが主がわたしにこの共同体の中でアッラー

قُلْ أَيُّ شَيْءٍ أَكْبَرُ شَهَادَةً قُلِ اللَّهُ شَهِيدِي بَيْنِي وَبَيْنَكُمْ وَأُوحِيَ إِلَيَّ هَذَا الْقُرْآنُ أَنْ لَا تَذْكُرُ بِهِ وَمَنْ بَلَغَ أَنتُمْ لَتَشْهَدُونَ أَنَّ مَعَ اللَّهِ إِلَهَةً أُخْرَى قُلْ لَا أَشْهَدُ قُلْ إِنَّمَا هُوَ إِلَهُ وَوَحْدٌ وَإِنِّي بَرِيءٌ مِمَّا تَشْرِكُونَ ﴿١٦﴾
 الَّذِينَ آتَيْنَاهُمُ الْكِتَابَ يَعْرِفُونَهُ كَمَا يَعْرِفُونَ أَبْنَاءَهُمْ الَّذِينَ خَسِرُوا أَنفُسَهُمْ فَهُمْ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿١٧﴾ وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنِ افْتَرَى عَلَى اللَّهِ كَذِبًا أَوْ كَذَّبَ بِآيَاتِهِ إِنَّهُ لَا يُفْلِحُ الظَّالِمُونَ ﴿١٨﴾ وَيَوْمَ نَحْشُرُهُمْ جَمِيعًا ثُمَّ نَقُولُ لِلَّذِينَ أَشْرَكُوا آيِنَ شِرْكَائِكُمْ وَالَّذِينَ كَفَرُوا تَزْعُمُونَ ﴿١٩﴾ ثُمَّ لَمْ تَكُنْ فَتَنَّاهُمْ إِلَّا أَنْ قَالُوا وَاللَّهِ رَبِّنَا مَا كُنَّا مُشْرِكِينَ ﴿٢٠﴾
 أَنْظِرْ كَيْفَ كَذَبُوا عَلَى أَنفُسِهِمْ وَضَلَّ عَنْهُمْ مَا كَانُوا يَفْتَرُونَ ﴿٢١﴾ وَمِنْهُمْ مَنْ يَسْتَمِعُ إِلَيْكَ وَجَعَلْنَا عَلَى قُلُوبِهِمْ أَكِنَّةً أَنْ يَفْقَهُوهُ وَفِي آذَانِهِمْ وَقْرًا وَإِنْ يَرَوْا كَلِمَةَ آيَةٍ لَا يُؤْمِنُوا بِهَا حَتَّى إِذَا جَاءَهُمْ يَكْفُرُونَ كَقَوْمِكَافِرِينَ قُلْ لِلَّذِينَ كَفَرُوا هَذَا إِلَّا أَسْطِيرٌ الْأُولِينَ ﴿٢٢﴾ وَهُمْ يَنْهَوْنَ عَنْهُ وَيَعْنُونَ عَنْهُ وَإِنْ يُهْلِكُونَ إِلَّا أَنفُسَهُمْ وَمَا يَشْعُرُونَ ﴿٢٣﴾ وَلَوْ تَرَى إِذْ وَقَفُوا عَلَى النَّارِ فَقَالُوا يَا لَيْتَنَا نُرَدُّ وَلَا نُكَذِّبُ بِآيَاتِ رَبِّنَا وَنَكُونَ مِنَ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٢٤﴾

19 言いなさい、使徒よ。あなたを否定する多神教徒に。「わたしの誠実さを証言してくれる存在で最も偉大なものは何でしょうか」と。言いなさい。「アッラーこそがわたしの誠実さを証言してくれる、最も偉大な存在です。かれはわたしたちの間の証言者であり、あなたがたの返答もご存知です。アッラーがこのクルアーンをわたしに啓示されたのは、あなたがたをはじめ、これの到達しうる人間とジン(幽精)をおびやかすためなのです。あなたがたはアッラーと共に別のものを信じています。」言いなさい、使徒よ。「わたしはあなたがたが認めるものをその誤りによって(正しいものとして)証言するつもりはありません。アッラーこそが唯一並ぶ者なき御方です。あなたがたがかれに並び立てる全てのものから、わたしは無関係です。」

20 われらが律法書を与えたユダヤ教徒や福音書を与えたキリスト教徒は、預言者ムハンマドのことを、自分の子供のことを他所の子供に比べてよく知るように熟知している。これらの者こそ、信じようとはせず己を地獄の業火に入れてしまうことで自分自身を損なった者である。

21 アッラーに同等のものを並び立て、それを崇めるか、かれがその使徒に啓示した諸節を否定する者以上に大きな不義をなす者はいない。アッラーに同等のものを並び立て、かれの様々な印を否定する者は、悔い改めないかぎり勝利することはないのである。

22 かれら全員を集めるとき、復活の日を思い起こせ。われらは誰一人として取り逃がすことなく、アッラーと共に別のものを崇めてきた者を非難して言うのである。「あなたがたがアッラーに並ぶ存在として嘘を吐いてきた同位者たちはどこに行ったのか。」

23 それからこの試練の後には、かれらは自分たちが崇めてきたものと無関係を装って嘘を吐くのである。「アッラーがわたしたちの主であり、わたしたちは生前あなたに同等のものを並び立てる多神教徒ではなく、あなたを信じる一神教徒でした。」

24 見るがよい、ムハンマドよ、いかにこれらの者が自分の多神教信仰を否定して己自身に嘘を吐いたかを。いかにかれらが生前アッラーと同等のものとしてでっちあげていたものの陰口をたたき、見捨てたかを。

25 使徒よ、あなたがクルアーンを誦み上げれば、多神教徒の中にはあなたに耳を傾ける者もいる。しかしながら、かれらが聞き入るものを役立てることはない。それはわれらがかれらの反抗によってその心に覆いをかけ、クルアーンを理解できないようにしたからである。また、われらはかれらの耳を役立つ聞き方から遠ざけ、聞こえないようにし、明らかな兆候や証拠を見ても信じようとせず、虚偽で真理に対する言い争いをけしかけて言う。「あなたがもたらしたものは、古典からの抜き出しに過ぎない」と。

26 かれらは人々が使徒を信じるのを禁じ、かれから学ぼうとする人を放っておかず、かれら自身も学ぼうとはしない。この行いが破壊させるのは己自身であり、そもそもそれが自滅行為なのを知らないのである。

27 使徒よ、もしかれらが復活の日に業火の前に引き連れられ、後悔の念を露わにしながらか、「もう一度生前の世界に戻してもらえさえすれば、アッラーの印を嘘とは呼ばず、信者と共にいるのに…」と言うのを見たら、その状態の酷さに驚くだろう。

本諸節の功德:

- 伝達と説明のためにクルアーンと共に預言者を違わした叡智の説明。中でも最大のものは、アッラーの唯一性へと人々をいざなうことである。
- アッラーと同等の存在の否定。またこれに関する多神教徒の虚論打破。
- 反抗や不信仰にもかかわらず、ユダヤ教徒やキリスト教徒が預言者について熟知していることの説明。

بَلْ بَدَأَهُمْ مَا كَانُوا يَخْفَوْنَ مِنْ قَبْلُ وَلَوْ رُدُّوا لَعَادُوا لِمَا نُهُوا عَنْهُ
 وَإِنَّهُمْ لَكَاذِبُونَ ﴿٢٨﴾ وَقَالُوا إِنَّا هِيَ الْأَحْيَاتُ الدُّنْيَا وَمَا نَحْنُ
 بِمَبْعُوثِينَ ﴿٢٩﴾ وَلَوْ تَرَى إِذْ وَقَفُوا عَلَى رَبِّهِمْ قَالَ أَيْسَ هَذَا
 بِالْحَقِّ قَالُوا بَلَىٰ وَرَبِّنَا قَالَ فَذُقُوا الْعَذَابَ بِمَا كُنْتُمْ تَكْفُرُونَ ﴿٣٠﴾
 فَدَخَسِرَ الَّذِينَ كَذَبُوا بِلِقَاءِ اللَّهِ حَتَّىٰ إِذَا جَاءَهُمْ السَّاعَةُ
 بَعْتَةٌ قَالُوا بَيْحَسِرَتْنَا عَلَىٰ مَا قَرَّرْنَا فِيهَا وَهُمْ يَحْمِلُونَ أَوْزَارَهُمْ
 عَلَىٰ ظُهُورِهِمْ أَلَسَاءَ مَا يَرِزُونَ ﴿٣١﴾ وَمَا الْحَيَاةُ الدُّنْيَا
 إِلَّا لَعِبٌ وَلَهُمْ فِي الْآخِرَةِ حَبِيرٌ لِلَّذِينَ يَتَّقُونَ أَفَلَا تَعْقِلُونَ ﴿٣٢﴾
 قَدْ نَعْلَمُ إِنَّهُ لَيَحْزَنُكَ الَّذِي يَقُولُونَ فَإِنَّهُمْ لَا يَكَذِبُونَكَ
 وَلَكِنَّ الظَّالِمِينَ بَيَّاتٍ بِاللَّهِ يَجْحَدُونَ ﴿٣٣﴾ وَلَقَدْ كُذِّبَتْ
 رُسُلٌ مِنْ قَبْلِكَ فَصَبَرُوا عَلَىٰ مَا كُذِّبُوا وَأَوْدُوا حَتَّىٰ أَتَاهُمْ
 نَضْرِبًا وَلَا مَبْدَلٍ لِكَلِمَاتِ اللَّهِ وَلَقَدْ جَاءَكَ مِنْ نَبِيِّ الْأَمْسَلِينَ
 ﴿٣٤﴾ وَإِنْ كَانَ كَبُرَ عَلَيْكَ إِعْرَاضُهُمْ فَإِنْ اسْتَطَعْتَ أَنْ تَبْتَغِيَ
 نَفَقًا فِي الْأَرْضِ أَوْ سَلْمًا فِي السَّمَاءِ فَتَأْتِيَهُمْ بَيَّاتَةٌ وَوَسْءَةٌ
 اللَّهُ لَجَمَعَهُمْ عَلَى الْهُدَىٰ فَلَا تَكُونَنَّ مِنَ الْجَاهِلِينَ ﴿٣٥﴾

②8 事はもし戻されれば信じたはず、というわけではない。むしろかれらの手足が反証したとき、「アッラーにかけて、わたしたちは多神教徒ではなかった」というかれらの言葉で覆いをかけていたものが露わになったのである。万が一この世に戻ったならば、かれらは禁じられた不信仰や多神教崇拜へと戻っただろう。戻ったら信じるというかれらの約束は、嘘なのである。

②9 多神教徒は言うだろう。「今ある人生のほかには人生はない。清算の日に蘇らせられることはないのだ。」

③0 使徒よ、復活を否定する人が主の前に立たされると、いかにかれらの状態が酷いかを見るだろう。アッラーは仰せられる。「これがあなたがたの否定していた、疑いの余地なき復活ではないのか。」「主にかけて誓いますが、確かにこれは疑いの余地なき真実です。」そこでアッラーはかれらに言うのである。「この日を信じようとしなかった不信仰のせいでこの懲罰を味わうがよい。生前あなたがたはそれを嘘としていたのである。」

③1 復活の日の復活を否定し、アッラーの前に立たされることなどありえないとした人は損失をこうむり、その時が何の前触れもなく突然やってくれば、激しい後悔のあまり言うだろう。「ああ、なんと悔やまれることだろうか。不信仰や復活の日への備えでアッラーに対して怠ってしまった」と。かれらは自分の背中に悪行を載せることになる。かれらの運ぶ悪行のなんと醜いことか。

③2 この世での人生は、アッラーのお喜びになる行いをしない者にとっては、戯れや自惚れに過ぎない。一方あの世は、信仰や忠誠といった義務行為を通してアッラーを意識し、多神崇拜や違反といった禁止行為を避けることでアッラーを意識する者にとっては、よりよいところなのである。多神教徒よ、それを考えて信じ、よい行いをしようとはしないのか。

③3 使徒よ、われらはかれらが表面的にあなたを否定することであなたが悲しんでいるのを知っている。だがかれらは心中ではあなたを否定してはいないのだということを知れ。あなたの誠実さをよく知っているからである。しかしながらかれらは不義をなす者たちであり、心の中では確信していながら、表面的にはあなたを否定するのである。

③4 この否定があなたにだけ起っていると思ってはならない。以前の使徒たちも否定され、自分たちの民に迫害を受けたのである。それに対してかれら(使徒たち)はアッラーの勝利が来るまで伝教をもって応じ、アッラーの道において最善の努力を尽くす上で辛抱をもって応じた。アッラーが定められた勝利や約束を置き換えることのできる者はいない。使徒よ、以前の使徒たちがその民から被ったこと、かれらの敵を殲滅(せんめつ)するというアッラーの勝利がもたらされたこと(知らせ)があなたには届いたはずである。

③5 使徒よ、もしかれらから被る否定や真理への反対が辛いなら、もしあなたが地上で金銭を費やすか、昇天する乗り物を求めてわれらがあなたを助けたものとは別の証拠や印をかれらのもとに持って来られるのなら、そうするがよい。万が一アッラーがかれらを真理にこぞって導かれることを望まれたなら、そうされただろう。しかしながらかれはある深い英知のためにそう望まれなかったのである。だから無知で愚かな振る舞いをする者の一人となつてはならず、かれらが信じないからといって嘆き悲しんではいない。

本諸節の功德:

- アッラーの公平さの顕れとして、復活の日の広場でお互いに証言し合えるように、崇める者と崇められる者、従う者と従われる者全員を集められる。
- クルアーンを聴く人全てがそれを役立てられるわけではない。ひょっとすると、心の封印や教訓を得る聴き方では聞こえないようにされるなど、障壁があるかもしれない。
- 多神教徒がいかに表面的には否定していようと、心の中では預言者の誠実さを確信しているかの説明。
- 預言者への慰めとして、この否定がかれだけに起こったことではなく、以前の使徒たちに応答する上での多神教徒の常套手段だということの知らせ。

* إِنَّمَا يَسْتَجِيبُ الَّذِينَ يَسْمَعُونَ وَالْمَوْتَى يَبْعَثُهُمُ اللَّهُ تَرْتِيبًا
 يُرْجَعُونَ ﴿٦٦﴾ وَقَالُوا لَوْلَا نُزِّلَ عَلَيْهِ آيَةٌ مِنْ رَبِّهِ قُلْ إِنَّ اللَّهَ
 قَادِرٌ عَلَى أَنْ يُنَزِّلَ آيَةً وَلَٰكِنَّ أَكْثَرَهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٦٧﴾ وَمَا
 مِنْ دَابَّةٍ فِي الْأَرْضِ وَلَا طَيْرٍ يَطِيرُ بِجَنَاحَيْهِ إِلَّا أُمَمٌ أَمْثَلُكُمْ
 مَا قَرَأْنَا فِي الْكِتَابِ مِنْ شَيْءٍ ثُمَّ إِلَىٰ رَبِّهِمْ يُحْشَرُونَ ﴿٦٨﴾
 وَالَّذِينَ كَفَرُوا بآيَاتِنَا صُومُوا بِكُمْ فِي الظُّلُمَاتِ مِنْ يَتَشَاءُ
 اللَّهُ يُضِلُّهُ وَمَنْ يَشَاءُ يُجْعَلْهُ عَلَىٰ صِرَاطٍ مُسْتَقِيمٍ ﴿٦٩﴾ قُلْ
 أَرَأَيْتُمْ إِنْ أَتَاكُمْ عَذَابُ اللَّهِ أَوْ أَتَتْكُمُ السَّاعَةُ أَغَيْرَ اللَّهِ
 تَدْعُونَ إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٧٠﴾ بَلْ إِيَّاهُ تَدْعُونَ فَيَكْشِفُ
 مَا تَدْعُونَ إِلَيْهِ إِنْ شَاءَ وَتَنْسَوْنَ مَا تُشْرِكُونَ ﴿٧١﴾ وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا
 إِلَىٰ أُمَمٍ مِنْ قَبْلِكَ فَأَخَذْنَاهُمْ بِالْبَأْسَاءِ وَالضَّرَّاءِ لَعَلَّهُمْ
 يَتَضَرَّعُونَ ﴿٧٢﴾ فَلَوْلَا إِذْ جَاءَهُمْ بِآسِنَاتِنَا تَضَرَّعُوا وَلَٰكِنْ قَسَتْ
 قُلُوبُهُمْ وَزَيَّنَ لَهُمُ الشَّيْطَانُ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٧٣﴾ فَلَمَّا
 نَسُوا مَا ذُكِّرُوا بِهِ فَتَحْنَا عَلَيْهِمُ أَبْوَابَ كُلِّ شَيْءٍ حَتَّىٰ
 إِذَا فَرِحُوا بِمَا أُوتُوا أَخَذْنَاهُمْ بَعْتَةً فِإِذَا هُمْ مُجْلِسُونَ ﴿٧٤﴾

36 あなたがもたらしたものを受け入れるのは、話を聞いて理解する者である。不信仰者は死人同然であり、考慮に値しない。心がすでに死んでしまっているからである。死人は復活の日にアッラーが蘇らせられ、それからかれにのみ帰り行き、行ったことに応じて報われるのである。

37 多神教徒は信仰を馬鹿にしてわざとと言う。「ムハンマドに奇跡の印が下されはしないのか。間違いなく主からのものであることを明らかにするものとなるのに。」使徒よ、言ってやりなさい。「アッラーはお望み通り印を下すこともできます」と。だがほとんどのそうした多神教徒は、印の啓示は求められるとおりにではなく、**かれ**の英知に基づくものであることを知らないのである。万が一**かれ**がそれを下してからなおかれらが信じなければ、かれらは滅ぼされることになっただろう。

38 地上を動く動物または空を飛ぶ鳥で人間のように創造や糧において様々な種類を持たない存在はない。守られた碑版に記されたことでそれを定めずに放置しておいたものはない。全ての知識はアッラーの御許にあり、それから主のみによって復活の日にかれらは裁きかけられ、それぞれが相応しい報いを受けるために集められるのである。

39 **われら**の印を嘘と否定する者は、聞こえない聴覚障碍者や話の出来ない発話障碍者に等しく、加えて暗闇の中にあって見えないのである。こうした状態にある者が導かれるということがあろうか。アッラーが迷うに任せるように望んだ者は迷わせられ、導きを望まれた者はまっすぐな道を行けるようにしてください。

40 使徒よ、多神教徒に言いなさい。「もしアッラーからの懲罰や到来を約束されたその時がやって来たならば、自分たちの崇めるものは利益をもたらして害を払いのけるという主張においてもしあなたがたが誠実なら、そうしたときに試練や困難を取り払ってくれるようアッラー以外の存在にお願いするかどうか知らせてください。」

41 真実は、そうしたときにはあなた方もアッラー以外の存在に祈ることはなく、試練や害を払いのけられる存在はないということである。**かれ**はお望みになればそれができる全能な御方だが、あなたがアッラーに並び立てた、崇められる存在については、あなた方自身がそれらは役に立たず、害にもならないのを知っているから見向きもしないのである。

42 使徒よ、**われら**はあなた以前の共同体に使徒たちを遣わしたが、人々はかれらを否定し、反抗した。だから**われら**はかれらが主にお仕えし、謙虚に卑下するために貧困や病気で罰したのである。

43 もし**われら**の試練がやって来たときに払いのけてもらえるよう、かれらがアッラーに対して謙虚に従ったならば、**われら**もかれらに慈悲をかけただろうが、かれらはそうはしなかった。むしろ心を一層頑なにし、教訓を得ようとせず、考慮もせず、悪魔が不信仰や違反を飾り立てるままにそれまでのあり方を続けたのである。

44 貧困や病気の厳しさのせいで諭されたものを放置し、アッラーの命を実践しなかったため、**われら**はかれらに糧の門戸をいくつも開き、貧困の後に豊かさを与え、病気の後に健康を与えることで段階的試練を与えた。そうしてかれらは与えられた恩恵が自分の力で成し遂げたものという自惚れに襲われ、**われら**の懲罰が突然やって来たときには、希望を絶たれて慌てふためくのである。

本諸節の功德:

- 不信仰者が死人に例えられること。なぜなら本当の生命は真実を受け入れ、導きの道に従うことで得られる心の命だからである。
- アッラーの試練における英知。違反する者の心をほぐし、主の御許へ戻すために試練を下されたのである。
- 迷いの民に恩恵や財産があることがかれらへのアッラーの愛を示すものではない。むしろそれは、当人や他者への段階的試練なのである。

فَقَطَّعَ دَائِرَ الْقَوْمِ الَّذِينَ ظَلَمُوا وَالْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٤٥﴾
 قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِنْ أَخَذَ اللَّهُ سَمْعَكُمْ وَأَبْصَرَكُمْ وَخَتَمَ عَلَى قُلُوبِكُمْ
 مِّنْ إِلَهِ غَيْرِ اللَّهِ يَأْتِيكُمْ بِهِ أَنْظُرْ كَيْفَ نُصَرِّفُ الْآيَاتِ
 ثُمَّ هُمْ يَصْدِفُونَ ﴿٤٦﴾ قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِنْ أَتَاكُمْ عَذَابُ اللَّهِ
 بَغْتَةً أَوْ جَهْرَةً هَلْ يُهْلِكُ إِلَّا الْقَوْمَ الظَّالِمِينَ ﴿٤٧﴾ وَمَا
 نُرْسِلُ الْمُرْسَلِينَ إِلَّا مُبَشِّرِينَ وَمُنذِرِينَ فَمَنْ ءَامَنَ وَأَصْلَحَ
 فَلَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿٤٨﴾ وَالَّذِينَ كَذَّبُوا بِآيَاتِنَا
 يَمَسُّهُمُ الْعَذَابُ بِمَا كَانُوا يَفْسُقُونَ ﴿٤٩﴾ قُلْ لَا أَقُولُ لَكُمْ
 عِنْدِي خَزَائِنُ اللَّهِ وَلَا أَعْلَمُ الْغَيْبِ وَلَا أَقُولُ لَكُمْ إِنِّي مَلَكٌ
 إِن تَتَّبِعُوا إِلَّا مَا يُوْحَىٰ إِلَيَّ قُلْ هَلْ يَسْتَوِي الْأَعْمَىٰ وَالْبَصِيرُ
 أَفَلَا تَتَفَكَّرُونَ ﴿٥٠﴾ وَأَنْذِرْ بِهِ الَّذِينَ يَخْفَوْنَ أَنْ يُحْشَرُوا إِلَىٰ
 رَبِّهِمْ لَيْسَ لَهُمْ مِنْ دُونِهِ وَلِيُّ وَلَا شَفِيعٌ لَهُمْ يَتَّقُونَ ﴿٥١﴾
 وَلَا تَطْرُدِ الَّذِينَ يَدْعُونَ رَبَّهُمْ بِالْعَدَوَّةِ وَالْعَشِيِّ يُرِيدُونَ
 وَجْهَهُ وَمَا عَلَيْكَ مِنْ حِسَابِهِمْ مِنْ شَيْءٍ وَمَا مِنْ حِسَابِكَ
 عَلَيْهِمْ مِنْ شَيْءٍ فَتَطْرُدَهُمْ فَتَكُونَ مِنَ الظَّالِمِينَ ﴿٥٢﴾

〔45〕破滅とアッラーの使徒たちの勝利によってかれらは全滅させられたため、不信仰の民の最後の一人が絶たれた。敵を滅ぼし、友を助けた、万物の主アッラーお独りにこそ感謝と称讃はある。

〔46〕使徒よ、多神教徒に言いなさい。「もしアッラーがあなたがたの聴覚を奪って耳の聞こえない者とし、視覚を取り上げて目の見えない者とし、心に封印をしてしまわれたなら、あなたがたが失ったものを持って来られる、崇拜に値する存在は誰なのかを聞かせてください」と。よく見てみよ、使徒よ。われらがいかに様々な証拠を明らかにしてもなおかれらが反抗するかを。

〔47〕言いなさい、使徒よ。「聞かせてください。あなたがたのもとにアッラーの懲罰が突然やって来るか、目の当たりにはっきりとしたかたちでやって来るかしたら、アッラーを信じようとせず、その使徒たちを否定する不義の者しかその懲罰に襲われることはないのではないですか」と。

〔48〕われらが使徒を遣わす際は、信仰の民には尽きない恩恵といった喜びの知らせと、不信仰の民にはわれらの激しい懲罰で脅かせる知らせとともに遣わさないことはない。よって使徒たちを信じ、行いを正した者には、あの世で待ち受けているものを恐れることはなく、世俗的な幸運で得られなかったものを口惜しく感じて悲しむこともないのである。

〔49〕われらの印を嘘と否定した者は、アッラーへの忠誠からはみ出したために苦しみに襲われる。

〔50〕使徒よ、多神教徒に言いなさい。「わたしのもとにアッラーの糧の宝庫があって好きなようにできるわけではありません。啓示で見せてもらえたものの他に、わたしに目に見えない世界のことがわかるわけでもありません。わたしは天使ではなく、アッラーの使徒なのです。啓示され

たことに従うだけで、わたしに相応しくないことを唱えたりもしません。』使徒よ、言いなさい。「真理を見定める洞察力を失った不信仰者と、真理を見定めてそれを信じた信者とが等しいことがあるでしょうか。多神教徒の皆さん、皆さんの周りにある様々な印について、頭を使って考えてみてください」と。

〔51〕使徒よ、復活の日に主の御許へ蘇らせられるのを恐れる者をこのクルアーンで脅かしなさい。アッラーのほかには援助者はおらず、執り成しもないのである。ひよっとするとかれらは命令を果たし、禁止を避けることでアッラーを意識するかもしれない。そうした者こそ、クルアーンを役立たせることのできる者である。

〔52〕使徒よ、日中の最初と最後に純真な信仰行為でアッラーを崇め続ける貧しいムスリムたちを集まりの場から遠ざけてはならない。多神教徒の要人を気にして、かれらを遠ざけてはならない。貧しい者たちの行いの清算があなたに問われるわけではなく、その清算は主の御許にある。また、かれらがあなたの行いの清算を問われるわけでもない。あなたがもしかれらを集会から遠ざけたなら、あなたは定めの境界線を踏み越える者の一人となってしまおう。

本諸節の功德:

- 預言者たちは人間であり、主の特性は何一つ持たない。その使命は伝達であり、世界の何かを自在に変えられるわけでも、目に見えない世界を知っているわけでもなく、宝庫などを持っているわけでもない。
- 伝教に携わる者は従う者に関心を払うべきであり、特に真理を望むだけの貧しい者は大切にして近づけるべきである。ましてや、不信仰者の歓心を買うためにかれらを遠ざけることは受け入れられない。
- 日中の最初と最後に捧げる信仰行為の大切さを本章句は示唆している。

وَكَذَلِكَ فَتَنَّا بَعْضَهُمْ بِبَعْضٍ لِيَقُولُوا أَهَؤُلَاءِ مَن مَّبَّ اللَّهُ
عَلَيْهِمْ مِّنْ بَيْنِنَا أَلَيْسَ اللَّهُ بِأَعْلَمَ بِالشَّاكِرِينَ ﴿٥٣﴾ وَإِذَا
جَاءَكَ الَّذِينَ يُؤْمِنُونَ بِآيَاتِنَا فَقُلْ سَلَّمْتُ عَلَيْكُمْ كَمَا
رَبُّكُمْ عَلَىٰ نَفْسِهِ الرَّحْمَةَ أَنَّهُ مَن عَمِلَ مِنْكُمْ سُوءًا
بِجَهْلَةٍ ثُمَّ تَابَ مِنْ بَعْدِهِ وَأَصْلَحَ فَأَنَّهُ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ﴿٥٤﴾
وَكَذَلِكَ نَفِصَلُ الْأَلْبَابَ وَلِتَسْتَوِينَ سَبِيلَ الْمُجْرِمِينَ
﴿٥٥﴾ قُلْ إِنِّي نُهِيتُ أَنْ أَعْبُدَ الَّذِينَ تَدْعُونَ مِنْ دُونِ اللَّهِ قُلْ
لَا اتَّبِعْ أَهْوَاءَ كُمْ قَدْ ضَلَلْتُمْ إِذَا وَمَا أَنَا مِنَ الْمُهْتَدِينَ
﴿٥٦﴾ قُلْ إِنِّي عَلَىٰ بَيِّنَةٍ مِّنْ رَبِّي وَكَذَّبْتُمْ بِهِ مَا عِنْدِي مَا
تَسْتَعِجِلُونَ بِهِ إِنْ الْحُكْمُ إِلَّا لِلَّهِ يَفْصَحُ الْحَقُّ وَهُوَ
خَيْرُ الْفَصِلِينَ ﴿٥٧﴾ قُلْ لَوْ أَنَّ عِنْدِي مَا تَسْتَعِجِلُونَ بِهِ لَقُضِيَ
الْأَمْرُ بَيْنِي وَبَيْنَكُمْ وَاللَّهُ أَعْلَمُ بِالظَّالِمِينَ ﴿٥٨﴾ * وَعِنْدَهُ
مَفَاتِحُ الْغَيْبِ لَا يَعْلَمُهَا إِلَّا هُوَ وَيَعْلَمُ مَا فِي الْبَرِّ
وَالْبَحْرِ وَمَا تَسْقُطُ مِنَ وَرَقَةٍ إِلَّا يَعْلَمُهَا وَلَا حَبَّةٌ فِي ظِلْمَةٍ
الْأَرْضِ وَلَا رَطْبٌ وَلَا يَأْسٌ إِلَّا فِي كِتَابٍ مُّبِينٍ ﴿٥٩﴾

الحزب ١٤

53) そのようにわれらはかれらをお互いに試練に合わせ、世俗的な幸運においてお互いに違いのある者とし、裕福な不信仰者が貧しい信者に、「これらの貧しい者たちが、導きによってアッラーに優遇された者たちだろうか。信仰がよいものであったなら、かれらがわたしたちの先を行けるわけがない。わたしたちこそ先頭に立つに相応しいのだから」と言って試練を与えた。アッラーこそがその恩恵に感謝する者のことをよりよく知り、信仰へと成功させ、あるいは感謝せずに恩を忘れる者のことをよりよく知り、辱めを与えて信じられないようにされる御方ではないだろうか。そのとおり。まことにアッラーこそが、かれらのことをよりよく知っておられるのである。

54) 使徒よ、あなたがもたらしたものが正しいことを証言するわれらの印を信じる者たちがやって来たなら、かれらを丁重に迎えるべく平安の挨拶を返し、アッラーのお慈悲の広大さでよい知らせを伝えよ。アッラーはあえて恩恵を課すかたちで慈悲を自らに課せられた。よってあなたがたのうち無知と愚かさであやまちを犯してしまった者があったとしても、その後で悔い改め、行いを正したならば、アッラーは犯したあやまちを赦してください。アッラーは僕たちのうち悔い改める者をよく赦してください。慈悲深い御方なのである。

55) 前述のようにわれらはあなたに明らかにし、虚偽の民に対して証拠を明らかにする。それは罪人の道を明らかにし、それを避け、注意喚起するためでもある。

56) 使徒よ、言いなさい。「わたしにはあなたがたがアッラーのほかに崇めているものを崇めるのをアッラーから禁じられたのです」と。使徒よ、言いなさい。「アッラー以外のものを崇めるあなたがたの我欲に従うつもりはありません。もしわたしがあなたがたの我欲に従うことがあれば、わたしは真理の道から迷い離れた者となってしまう、導かれることはなくなってしまうでしょう」と。これはアッラーからの明白な証なしに我欲に従う全ての者のことである。

57) 使徒よ、多神教徒に言いなさい。「わたしは主からの明白な証の上であり、我欲の上にあるわけではありませんが、あなたがたはこの明らかな証を嘘と否定しました。あなたがたが求める奇跡的な印や急かそうとする懲罰がわたしのもとにあるわけではありません。決定はアッラーただお独りのものであり、かれこそが真理を語り、決定されるのです。欠点とは無縁なかれこそが相応しくない人から相応しい人を明らかにし、区別する最良の御方なのです」と。

58) 言いなさい、使徒よ。「万が一わたしのもとにあなたがたが懲罰を急かそうとするものがあり、わたしの手の中にあったなら、それを下したでしょう。そうすれば、わたしとあなたがたの間にある事は成就されたこととなります。どれほど猶豫を与えられ、いつ処罰するか、不義をなす者のことをアッラーはよりよく知っておられるのです」と。

59) アッラーただお独りのもののみ目に見えない世界の宝庫はあり、かれ以外の存在がそれを知ることはない。かれは動物、植物、鉱物といった地上にある被造物をはじめ、海にいるものも全て知っておられ、どんな所への落ち葉であれ、地上に秘められた植物の粒も、湿ったものも乾いたものも、明らかな書(守られた碑版)に定められていないものはないのである。

本諸節の功德:

- アッラーは僕たちを互いに試練とし、糧や信仰の有無においてその度合いに違いをもうけられた。信仰や不信仰は糧の多少で決められるものではない。
- 伝教に携わる者の人徳として、笑顔であること、挨拶を進んですること、友人をもてなし歓迎することが大切である。
- 伝教に携わる者は信条と方針、振る舞いにおいて我欲を避けねばならない。
- 目に見えない世界を知るのは唯一アッラーだけで他に並ぶ者はない。全てが完全なかれの御許では詳細に至るまで書き記され、定められている。

وَهُوَ الَّذِي يَتَوَفَّاكُم بِاللَّيْلِ وَيَعْلَمُ مَا جَرَحْتُم بِالنَّهَارِ ثُمَّ يَبْعَثُكُمْ فِيهِ لِيُقْضَىٰ أَجَلٌ مُّسَمًّى ثُمَّ إِلَيْهِ مَرْجِعُكُمْ ثُمَّ يُنَبِّئُكُم بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٦٥﴾ وَهُوَ الْقَاهِرُ فَوْقَ عِبَادِهِ وَيُرْسِلُ عَلَيْكُمْ حَفَظَةً حَتَّىٰ إِذَا جَاءَ أَحَدَكُمْ الْمَوْتُ تَوَفَّتْهُ رُسُلُنَا وَهُمْ لَا يُفِرُّونَ ﴿٦٦﴾ ثُمَّ رُدُّوهُ إِلَى اللَّهِ مَوْلَاهُمُ الْحَقُّ ۗ أَلَا لَهُ الْحُكْمُ وَهُوَ أَسْرَعُ الْحَاسِبِينَ ﴿٦٧﴾ قُلْ مَنْ يَبْتَغِيكُمْ مِنْ طُلُمُتِ الْبَرِّ وَالْبَحْرِ تَدْعُونَهُ تَضَرُّعًا وَخُفْيَةً لَّئِنْ أَجَبْنَا مَنْ هَذِهِ لَنَكُونَنَّ مِنَ الشَّاكِرِينَ ﴿٦٨﴾ قُلِ اللَّهُ يَبْتَغِيكُمْ مِنْهَا وَمِنْ كُلِّ كَرْبٍ ثُمَّ أَنْتُمْ تُشْرِكُونَ ﴿٦٩﴾ قُلْ هُوَ الْقَادِرُ عَلَىٰ أَنْ يَبْعَثَ عَلَيْكُمْ عَذَابًا مِنْ فَوْقِكُمْ أَوْ مِنْ تَحْتِ أَرْجُلِكُمْ أَوْ يَلْبَسَكُمْ شِيْعًا وَيُذِيقَ بَعْضَكُمْ بِأَسِّ بَعْضٍ أَنْظُرْ كَيْفَ نَصَرَفَ الْآيَاتِ لَعَلَّهُمْ يَفْقَهُونَ ﴿٧٠﴾ وَكَذَّبَ بِهِ قَوْمُكَ وَهُوَ الْحَقُّ قُلْ لَسْتُ عَلَيْكُمْ بِوَكِيلٍ ﴿٧١﴾ لِكُلِّ نَبِيٍّ مُّسْتَقَرٌّ وَسَوْفَ تَعْمَلُونَ ﴿٧٢﴾ وَإِذْ آرَأَيْتَ الَّذِينَ يُحْضِرُونَ فِي آيَاتِنَا فَأَعْرَضَ عَنْهُمْ حَتَّىٰ يُحْضِرُوا فِي حَدِيثِ غَيْرِهِ وَإِمَّا نُنسِئَكَ الشَّيْطَانَ فَلَا تَقْعُدْ بَعْدَ الذِّكْرِىٰ مَعَ الْقَوْمِ الظَّالِمِينَ ﴿٧٣﴾

存在を並べ立てます。それ以上の不義があるでしょうか」と。

65 言いなさい、使徒よ。「アッラーこそはあなたがたの上からは石つぶてや雷電や洪水のような懲罰を、下からは地震や地盤陥没のような懲罰を、あるいはあなたがたの心には相違をもたらし、それぞれが自分の我欲に従い、お互いに殺しあう懲罰を下すことのできる御方です」と。よく見てみよ、使徒よ。いかにわれらが証拠を明らかにするかを。きつとかれらもあなたがもたらしたものが真実であり、かれらのもとにあるものが偽りであると理解するだろう。

66 あなたの民はこのクルアーンを嘘と否定した。それはアッラーからの疑いのない真理である。かれらに言いなさい、使徒よ。「わたしは監視を任されているわけではありません。わたしは厳しい懲罰の到来を告げる警告者に過ぎないのです」と。

67 全ての知らせには、それが落ち着く時間があり、それが終わる終結がある。その一つがあなたがたの行く末と待ち受ける結果の知らせである。やがて復活の日にそれを知るだろう。

68 使徒よ、もし多神教徒がわれらの印を馬鹿にして嘲笑しながら語るのを見たならば、話を切り替えるまで遠ざかりなさい。もし悪魔があなたを忘れさせ、かれらとともに座ってしまい、それから思い出したなら、その集まりからは立ち退き、これら反抗者たちとは一緒にいないようにしなさい。

本諸節の功德:

- 睡眠は死であり、魂はそこでつかみ取られ、起床時に戻されるということの確認。
- アッラーこそが神性に相応しいことを天性の証拠で導き出すこと。不信仰の民も必要に迫られたときや災害に陥ったときにはアッラーを信じ、天性に戻って唯一のアッラーにのみお願いをすること。
- 多神教徒がその振る舞いに応じた規制を受け、かれらの天性が反転することの立証。海での苦難時にはアッラーにのみ助けを求めながらも、陸地へ安全にたどり着き救われてからはアッラーとは別の存在を崇めるようになった。
- 偽りと無意味な話をする民との同席は許可されないこと。かれらとは離れ、そうしたことをやめないうちはかれらのもとに戻らないこと。

60 アッラーこそはあなたがたの魂を睡眠時に一時的につかみ取られる御方であり、またかれこそはあなたがたが日中の活動時間の行動で得たものを知る御方である。それからかれは睡眠により魂をつかみ取ったあとで、日中の行いを果たせるようあなたがたを蘇らせられる。アッラーの御許で一定期間定められているあなたがたの寿命が尽きるまでである。それから復活の日にはかれにのみ復活によるあなたがたの帰りどころはある。それからかれはあなたがたが生前行っていたことを告げ、それに応じて報いられるのである。

61 アッラーこそは僕たちを打ち負かし、辱めを与え、全ての面で高みにあられ、全てのものがかれに謙虚に仕え、かれの荘厳さに相応しいかたちでその僕たちの上にあられる御方である。人々よ、かれはあなたがたに高貴な天使たちを遣わし、誰かの寿命が死の天使に魂をつかまれることで尽きるまで行いを記録する。かれらが命じられたことにおいて怠ることはない。

62 それからアッラーという真実の所有者のもとへ召された魂は全て戻され、行いの報いを受ける。かれにこそ実行される決定と公平な裁定はあり、かれこそは数えることの最も速い御方であり、行いを最も網羅する御方なのである。

63 使徒よ、多神教徒に言いなさい。「陸の上や海の暗闇の中で遭遇する災害からあなたがたを救い、安全をもたらしてくれるのは誰でしょうか。あなたがたも(そうしたときには)裏表なく謙虚に低い姿勢で「もしわたしたちの主がこの災害から救ってくださったなら、もうかれの他には何も崇めず、きつとかれの恩恵に感謝する者の一人となるでしょう」とかれだけに祈って言うでしょう。」

64 言いなさい、使徒よ。「アッラーこそはあなたがたを救い出し、全ての苦難から助けてくださる御方です。それなのにあなたがたはその後で順調な時にはかれに別の存在を並べ立てます。それ以上の不義があるでしょうか」と。

وَمَا عَلَى الَّذِينَ يَتَّقُونَ مِنْ حِسَابِهِمْ مِنْ شَيْءٍ وَلَا كَلِمَةٍ
ذَكَرُوا لَعَنَهُمْ يَتَّقُونَ ﴿٦٩﴾ وَذَرِ الَّذِينَ اتَّخَذُوا دِينَهُمْ
لِعِبَائِهِمْ وَوَعَدَ اللَّهُ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا وَذَكَرَ بِهِ أَنْ
تُسْأَلُ نَفْسٌ بِمَا كَسَبَتْ لَيْسَ لَهَا مِنْ دُونِ اللَّهِ وَلِيٌّ
وَلَا شَفِيعٌ وَإِنْ تَعَدَلَ كُلُّ قَدْلٍ لَأَيُخَذَ مِنْهَا أُولَئِكَ
الَّذِينَ أُبْسِلُوا بِمَا كَسَبُوا لَهُمْ شَرَابٌ مِنْ حَمِيمٍ
وَعَذَابٌ أَلِيمٌ بِمَا كَانُوا يَكْفُرُونَ ﴿٧٠﴾ قُلْ أَدْعُوا مِنْ دُونِ
اللَّهِ مَا لَا يَنْفَعُنَا وَلَا يَضُرُّنَا وَنُرَدُّ عَلَىٰ أَعْقَابِنَا بَعْدَ إِذْ
هَدَيْنَا اللَّهُ كَالَّذِي اسْتَهْوَتْهُ الشَّيَاطِينُ فِي الْأَرْضِ
حَيْرَانًا لَهُ أَصْحَابٌ يَدْعُونَهُ إِلَىٰ الْهُدَىٰ انْتَبِهْ قُلْ إِنَّ
هُدَىٰ اللَّهِ هُوَ الْهُدَىٰ وَأَمْرًا نُنْسِلُهُ لِرَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٧١﴾ وَأَنْ
أَقِيمُوا الصَّلَاةَ وَآتُوا الزَّكَاةَ وَهُوَ الَّذِي إِلَيْهِ تُخْشَرُونَ ﴿٧٢﴾ وَهُوَ
الَّذِي خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ بِالْحَقِّ وَيَوْمَ يَقُولُ كُنْ
فَيَكُونُ قَوْلُهُ الْحَقُّ وَلَهُ الْمَلَكُ يَوْمَ يُنْفَخُ فِي الصُّورِ
عَلِيمُ الْغَيْبِ وَالشَّهَادَةِ وَهُوَ الْحَكِيمُ الْخَبِيرُ ﴿٧٣﴾

69) ご命令を果たし、禁止を避けることでアッラーを意識する者がこれらの不義なす者の清算において責任を問われることは何もない。悪行をやめるように勧めなければならぬだけである。きっとかれらもアッラーを意識するようになり、ご命令を実践して禁止を避けるようになるだろう。

70) 使徒よ、自分たちの宗教を遊びや趣味として馬鹿にして嘲笑い、刹那的な享楽などこの世に騙されているこれらの多神教徒は放っておきなさい。預言者よ、クルアーンで人々を諭しなさい。自我が自らの犯した悪行のせいで破滅に身を任せることのないように。アッラーのほかには助けてくれる同盟者もいなければ、復活の日にその懲罰を防いでくれる執り成しもない。よってアッラーの懲罰から逃れるために、どんな貢ぎ物を捧げようと受け入れられることはない。これらの者たちは違反行為を犯したせいで自滅するに任せた者たちであり、かれらには復活の日にその不信仰のせいで、この上なく熱い飲み物と痛ましい懲罰があるのである。

71) 使徒よ、多神教徒に言いなさい。「益をもたらしてくれるわけでもなく、害を与えるでもないアッラー以外の偶像を崇め、アッラーに導いていただいた後で信仰に背くのですか。そうしたらわたしたちは、悪魔に迷わされた者のようになってしまいます。まっすぐな道の上から真理へといざなう友が何人もいながら、その呼びかけを拒み、正しく導かれないままさまよい続けることになるでしょう。」使徒よ、言いなさい。「本当にアッラーのお導きこそが真の導きです。アッラーはかれだけを信じ、かれだけを崇めることをわたしたちに命じられました。かれは万物の主になりません。」

72) **かれ**は礼拝を確立することをわたしたちに命じられ、ご命令を果たし、禁止を避けることでアッラーを意識することを命じられる。**かれ**こそは復活の日に僕たちを一同に集められ、行いに応じて報いられる御方なのである。

73) **かれ**こそは真理によって天地を創造し、アッラーがあることに「あれ」と言えばすなわちあり、復活の日に言うのである。「立ちなさい」と言えばかれらは立つ。**かれ**の言葉は必ず起こる誠実なものであり、復活の日には**かれ**にのみ王権はある。イスラフィールが2回目の角笛を吹くときである。かれは見えなくなったものも知っておられ、目撃されたものも知っておられる。**かれ**こそはその被造物とご計画において英明な御方であり、何一つ見逃すものはない通曉者である。**かれ**にとっては、内側も外側も等しいのである。

本諸節の功德:

- アッラーへの伝教者は、誰の行いの清算についても責任を問われるわけではない。責任を負うのは、伝達と注意喚起である。
- 啓発は不注意な人や傲慢な人を呼び醒す最良の手段である。
- 純粋な唯一神信仰の証の一つ、それは益も害も持たず自由に操ることもできない存在が崇められるべき神であるわけがないということである。

* وَإِذْ قَالَ إِبْرَاهِيمُ لِأَبِيهِ أَرَأَيْتَ اتَّخَذْتُمْ مِمَّا آتَتْ مَاءَ الْهَيْمَةِ نَبَاتًا
 أَرَأَيْتَ أَنْ تَذُرَّهُ كَذَلِكَ نَذُرُ الْإِبْرَاهِيمَ ۖ وَكَذَلِكَ نَذُرُ الْإِبْرَاهِيمَ
 مَلَكَوَاتِ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَلِيَكُونَ مِنَ الْمُوقِنِينَ ۖ
 فَلَمَّا جَنَّ عَلَيْهِ اللَّيْلُ رَأَى الْكُوفَةَ بَابًا قَالَتْ هَذَا نَبَاتِي فَلَمَّا أَفَلَّ
 قَالَ لَا أَحِبُّ الْإِفْلِينَ ۖ فَلَمَّا رَأَى الْقَمَرَ بَارِعًا قَالَ هَذَا
 رَبِّي فَلَمَّا أَفَلَّ قَالَ لَئِن لَّمْ يَهْدِنِي رَبِّي لَأَكُونَنَّ مِنَ الْقَوْمِ
 الضَّالِّينَ ۖ فَلَمَّا رَأَى الشَّمْسَ بَارِعَةً قَالَ هَذَا رَبِّي هَذَا
 أَكْبَرُ فَلَمَّا أَفَلَّتْ قَالَ يَا قَوْمِ إِنِّي بَرِيءٌ مِّمَّا تُشْرِكُونَ ۖ
 إِنِّي وَجَّهْتُ وَجْهِيَ لِلَّذِي فَطَرَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ
 حَنِيفًا وَمَا أَنَا مِنَ الْمُشْرِكِينَ ۖ وَحَاجَّهُ قَوْمُهُ قَالَ
 أَتُحِبُّونِي فِي اللَّهِ وَقَدْ هَدَانِي وَلَا أَخَافُ مَا تُشْرِكُونَ بِهِ ۚ
 إِلَّا أَن يَشَاءَ رَبِّي شَيْئًا وَسِعَ رَبِّي كُلَّ شَيْءٍ عِلْمًا أَفَلَا
 تَتَذَكَّرُونَ ۖ وَكَيْفَ أَخَافُ مَا أَشْرَكْتُمْ وَلَا تَخَافُونَ
 أَنَّكُمْ أَشْرَكْتُمْ بِاللَّهِ مَا لَمْ يُنَزَّلْ بِهِ عَلَيْكُمْ سُلْطَانًا
 فَأَنْتُمْ الْفَرِيقَيْنِ أَحَقُّ بِالْأَمْنِ إِن كُنْتُمْ تَعْلَمُونَ ۖ

74 使徒よ、イブラーヒームが多神教徒の父アーザルに
 言ったときのことを思い起こさない。「父上、アッラーの
 ほかに偶像を神として崇めるのですか。わたしには偶像
 を崇めるあなたやあなたの民が明らかな迷いの中に
 あり、アッラー以外のものを崇めるせいで真理の道から外
 れてしまっているように見えます。**かれ**こそは完全な真に
 崇拝に値する御方であり、**かれ**以外のものは偽りの崇拝
 対象なのです。」

75 かれの父や民の蒙昧ぶりを見せたように、**われら**は
 かれに天地の王権を見せよう。その広大な王権を通して
 アッラーの唯一性やいかに**かれ**だけが崇拝に値する
 かの証を見出せるように。そしてアッラーが唯一にして並ぶ
 者なき存在であり、万能な御方だということを確認する
 者となれるように。

76 そうして夜も暗くなると、かれは惑星を見て言っ
 た。「これがわたしの主だ」と。だがそれが見えなくなると、
 「消えてしまうものは嫌だ」と言った。なぜなら真の神
 は常にあり続け、消えたりしないからである。

77 月が昇っているのを見ると、「これがわたしの主だ」と
 言い、それが見えなくなると、「アッラーがわたしを**かれ**
 のみを崇め、**かれ**のみが崇拝に相応しいとみなす純粋な
 信仰へとお導きくださらなかったなら、わたしも真理の
 教えからは遠く離れ去った人たちの一人になってしまっ
 ていただろう」と言う。

78 太陽が昇るのを見れば、「この昇りゆくものがわたしの
 主だ。この昇りゆくものは惑星よりも月よりも大きい」と
 言うが、それが沈めば「皆さん、わたしはあなたがたが
 アッラーの他に崇めるものからは無関係です」と言う。す
 るとかれらはあたかもかれに「では、あなたは何を崇め
 るのか」と問いかけたかのようであり、かれは言うのであ
 る。

79 「わたしは多神教信仰から純粋な唯一神信仰に傾倒しつつ、前例なしに天地を創造された御方に自分の信仰を純粋に捧げま
 す。わたしは**かれ**に別の存在を並べ立てて崇める多神教徒ではありません。」

80 かれの民である多神教徒はアッラーを唯一の神として崇めることに反抗し、偶像でかれを脅かした。かれは言った。「わたしの主
 が正しくお導きくださってなお、あなたがたはアッラーだけを唯一の神とみなし、**かれ**だけに信仰行為を捧げることにわた
 しと争うつもりですか。わたしはあなたがたの偶像を恐れたりはしません。アッラーがご希望にならないかぎりには、それらの偶
 像はわたしを益することも害することもできないのです。アッラーの望まれたことだけが、アッラーの知識とともに全ては存在
 します。ですから天地にあるものは何一つアッラーから不鮮明になることはありません。皆さん、あなたがたがアッラーに対して不
 信仰であり、多神崇拝を行っていることを思い起こし、**かれ**だけを信じようとはしないのですか。

81 あなたがたがアッラーの他に崇める偶像を怖れるなどということが、わたしにありえましょうか。あなたがたはアッラーが創造さ
 れたものをなんの根拠もなくアッラーに並べ立てて崇めるようなことをし、恐ろしくはならないのですか。一神教徒と多神教徒のど
 ちらが安全と平和に相応しいでしょうか。もしあなたがたがより相応しい優れた集団を知っているなら、そちらに従うべきでしょう。
 もちろん、疑いの余地なしに一神教徒の信者の集団がより相応しい優れた集団に他なりません。」

本諸節の功德:

- 万物を司る主が誰であるかを、被造物を観察することで証明しようとするのはクルアーン的手法である。
- 明白な理知的論拠は、アッラーこそが万物を司る主であることへと到達させてくれる。

الَّذِينَ آمَنُوا وَلَمْ يَلْبِسُوا إِيمَانَهُمْ بِظُلْمٍ أُولَئِكَ لَهُمُ الْأَمَنُ
 وَهُمْ مُّهْتَدُونَ ﴿٨٥﴾ وَتِلْكَ حُجَّتُنَا آتَيْنَاهَا إِبْرَاهِيمَ عَلَى
 قَوْمِهِ تَرْفَعُ دَرَجَاتٍ مَن نَّشَاءُ إِنَّ رَبَّكَ حَكِيمٌ عَلِيمٌ ﴿٨٦﴾
 وَوَهَبْنَا لَهُ إِسْحَاقَ وَيَعْقُوبَ كُلًّا هَدَيْنَا وَنُوحًا هَدَيْنَا
 مِن قَبْلُ وَمِن ذُرِّيَّتِهِ دَاوُدَ وَسُلَيْمَانَ وَأَيُّوبَ وَيُوسُفَ
 وَمُوسَى وَهَارُونَ وَكَذَلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿٨٧﴾
 وَرَكَيَا وَيَحْيَى وَعِيسَى وَإِلْيَاسَ كُلٌّ مِّنَ الصَّالِحِينَ
 ﴿٨٨﴾ وَإِسْمَاعِيلَ وَإِسْحَاقَ وَيُوسُفَ وَهُوَ آخِرٌ فَضَلْنَا عَلَى
 الْعَالَمِينَ ﴿٨٩﴾ وَمِن آبَائِهِمْ وَذُرِّيَّتِهِمْ وَإِخْوَانِهِمْ وَاجْتَبَيْنَاهُمْ
 وَهَدَيْنَاهُمْ إِلَى صِرَاطٍ مُسْتَقِيمٍ ﴿٩٠﴾ ذَلِكَ هُدَى اللَّهِ يَهْدِي
 بِهِ مَن يَشَاءُ مَن عَبَادَهُ وَلَوْ اشْرَكُوا لَحِطَّ عَنْهُمْ مَا كَانُوا
 يَعْمَلُونَ ﴿٩١﴾ أُولَئِكَ الَّذِينَ آتَيْنَاهُمُ الْكِتَابَ وَالْحُكْمَ
 وَالنَّبُوءَةَ فَإِن يَكْفُرْ بِهَا هَؤُلَاءِ فَقَدْ وَكَلْنَا بِهَا قَوْمًا لَّيْسُوا
 بِهَا بِكَافِرِينَ ﴿٩٢﴾ أُولَئِكَ الَّذِينَ هَدَى اللَّهُ فَبِهِدْهُمُ آقْصَدَةٌ
 قُلْ لَّا أَسْأَلُكُمْ عَلَيْهِ أَجْرًا إِن هُوَ إِلَّا ذِكْرَى لِّلْعَالَمِينَ ﴿٩٣﴾

82 アッラーを信じ、そのために従い、多神崇拝を自分の信仰に混ぜ合わせない人にこそ安全と平安はある。かれらは成功者であり、主が導きの道へと成功させてくださったのである。

83 その証拠は、『それでどちらの集団が安全に相応しいだろうか…』というかれの御言葉で、イブラーヒームが民に打ち勝ち、かれらの論拠が尽き果てることとなったものである。それはわれらがかれに自分の民へ明らかにするためにもたらしたわれらの証拠である。われらは僕たちのうちわれらの望む者のこの世とあの世での位階を高める。本当にあなたの主は、使徒よ、その創造と計画において英明なる御方であり、その僕たちを知る御方である。

84 われらはイブラーヒームに息子のイスハークと孫のヤアクブを与え、皆をそれぞれまっすぐな道へ導いた。かれら以前にはヌーフを導き、ヌーフの子孫からダーウードとその息子スライマン、アイユブ、ユースフ、ムーサーとその兄弟ハールーンを皆それぞれ真理の道へと導いた。預言者たちへその誠意に報いて報奨を与えたようなこの報奨で、かれらへもその誠意に報いるだろう。

85 同じようにザカリーヤーやヤハヤー、マルヤムの子イサー、そしてイルヤースを皆それぞれ導いた。これらの預言者たちは皆アッラーが使徒として選ばれた敬虔な人である。

86 また同じようにイスマエールやアルヤサウ、ユースとルートを導いた。そして皆、預言者ムハンマドを筆頭にこれらの預言者たちをわれらは全世界に対する選良としたのである。

87 そしてわれらはかれらの一部の父祖たちや子孫、兄弟のうちでわれらが成功を望む者を選び、導いた。アッラーだけを崇め、かれにお仕えするまっすぐな道を歩めるよう導いたのである。

88 かれらに起こった成功こそ、僕たちのうちお望みの者に恵まれるアッラーの成功である。万が一かれらがアッラーとは別のものを並べ立てたなら、かれらの行いは無効となっていただろう。多神崇拝は善行を台無しにしてしまうからである。

89 言及された預言者たちこそ、われらが書を与え、英知を与え、預言者性を与えた者である。よってもしあなたの民がこうしてわれらが与えた三つのものを信じようとならないなら、不信仰でない人たちを(訳者注:代わりに)備えて用意するだろう。むしろかれらは信者かつそれ(啓典、英知、預言者性)にしかと掴まろうとする者たちであり、ムハージルーン(マッカからマディーナへの移住者たち)とアンサール(マディーナで移住者を迎え入れた援助者たち)であり、復活の日に至るまでかれらに誠心誠意従った者たちのことである。

90 そうした預言者たちやかれらと共に言及されたその父祖や子孫や兄弟こそ真の導きの民である。だからかれらに従い、見習いなさい。使徒よ、あなたの民に言いなさい。「わたしはあなたがたにこのクルアーンを伝える見返りを求めたりはしません。クルアーンは人間とジンがまっすぐな道へと導かれるためにある、万物にとっての訓戒でしかないのです」と。

本諸節の功德:

- 純粋な唯一神信仰の美德には、人間に安全を保障してくれるということがある。特に人々が皆恐れおののくあの世ではなおのことである。
- 以前からの預言者たちも皆、伝教ができたのはアッラーのおかげであり、かれら自身の力ではないということを、クルアーンの諸節は明言している。
- たとえ教えの細かい規定に違いはあっても、アッラーだけにお仕えせよというメッセージの伝達において預言者たちは皆等しい。
- 預言者たちを見習うのはよい慣行であり、純粋な唯一神信仰の基本においてはなおのことである。

وَمَا قَدَرُوا اللَّهَ حَقَّ قَدْرِهِ إِذْ قَالُوا مَا أَنْزَلَ اللَّهُ عَلَى بَشَرٍ مِنْ شَيْءٍ
 قُلْ مَنْ أَنْزَلَ الْكِتَابَ الَّذِي جَاءَ بِهِ مُوسَى نُورًا وَهُدًى
 لِلنَّاسِ يَجْعَلُونَهُ قَرَاطِيسَ يُبَدُونَهَا وَيُخْفُونَ كَثِيرًا وَعِلمَهُمْ
 مَا لَمْ تَعْمُوا أَنْتُمْ وَلَا آبَاؤُكُمْ قُلِ اللَّهُ تَرَاهُمْ فِي حَوْضِهِمْ
 يَلْعَبُونَ ﴿٩١﴾ وَهَذَا كِتَابٌ أَنْزَلْنَاهُ مَبْرُوكٌ مُصَدِّقٌ لَّذِي بَيْنَ
 يَدَيْهِ وَلِتُنذِرَ أُمَّ الْقُرَى وَمَنْ حَوْلَهَا وَالَّذِينَ يُؤْمِنُونَ بِالْآخِرَةِ
 يُؤْمِنُونَ بِهِ وَهُمْ عَلَى صَلَاتِهِمْ يُحَافِظُونَ ﴿٩٢﴾ وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنْ
 افْتَرَى عَلَى اللَّهِ كَذِبًا أَوْ قَالَ أُوحِيَ إِلَيَّ وَلَمْ يُوحَ إِلَيْهِ شَيْءٌ
 وَمَنْ قَالَ سَأُنزِلُ مِثْلَ مَا أَنْزَلَ اللَّهُ وَلَوْ تَرَى إِذِ الظَّالِمُونَ فِي
 غَمْرَاتِ الْمَوْتِ وَالْمَلَائِكَةُ بَاسِطُوا أَيْدِيهِمْ أَخْرِجُوا أَنْفُسَكُمُ
 الْيَوْمَ تُجْزَوْنَ عَذَابَ الْهُونِ بِمَا كُنْتُمْ تَقُولُونَ عَلَى اللَّهِ غَيْرَ
 الْحَقِّ وَكُنْتُمْ عَنْ آيَاتِنَا تَسْتَكْبِرُونَ ﴿٩٣﴾ وَلَقَدْ جِئْتُمُونَا
 فُرْدًا يَكْمُلُ كَمَا خَلَقْنَاكُمْ أَوَّلَ مَرَّةٍ وَتَرَكْتُمْ مَا خَوَّلْنَاكُمْ وَرَاءَ
 ظُهُورِكُمْ وَمَا نَرَى مَعَكُمْ شُفَعَاءَكُمُ الَّذِينَ زَعَمْتُمْ أَنَّهُمْ فِيكُمْ
 شُرَكَاءُ لَقَدْ تَقَطَّعَ بَيْنَكُمْ وَضَلَّ عَنْكُمْ مَا كُنْتُمْ تَزْعُمُونَ ﴿٩٤﴾

91 多神教徒が預言者ムハンマドに、「アッラーが人間に啓示など下されたことはない」と言ったとき、かれらはアッラーを正しく尊崇しなかったのである。使徒よ、かれらに言いなさい。「ムーサーに律法をその民への光と導きとして下されたのは誰でしょうか。ユダヤ教徒はそれを冊子にして自分たちの好みに合うものだけを示し、ムハンマドの特徴のように都合の悪いことは隠すのです。アラブの皆さん、あなた方はクルアーンであなた方自身も先祖も知らなかったことを知らされたではありませんか」と。使徒よ、かれらに言いなさい。「それはアッラーが下されたものです」と。そうしてかれらのもとに確信がやって来るまで、無知と迷いの中で嘲笑し続けるかれらを放っておきなさい。

92 預言者よ、このクルアーンはわれらがあなたに下したものである。それは祝福された書であり、マッカの民や東西の果てに至るまでの全ての人々がそれで導かれるよう、あなたが警告できるように、以前の啓示の書を確証するものである。あの世を信じる人は、このクルアーンを信じ、そこにあることを実践し、イスラームの教えで定められた時間内にその必須作法や義務行為、そして推奨行為に留意して礼拝を守る。

93 「アッラーが人間に啓示を下したことはない」と嘘をでっちあげるか、アッラーが何も啓示していないのに「アッラーがわたしに啓示した」と嘘をつか、「アッラーがクルアーンを啓示されたようにわたしもやがて啓示を下す」と言う者以上に大きな不義をなす者はない。使徒よ、これらの不義なす者たちが死の苦しみに襲われ、天使たちが翼を広げて懲罰と暴行を繰り返し、「魂を出すがい。わたしたちが取り上げてやろう。今日この日こそ、あなたがたが生前アッラーに対してついていた預言者性の偽りや啓示の嘘、アッラーが啓示したように啓示するといった嘘や傲慢さのせいで、あなたがたを屈服させる懲罰で報いられるのである」と脅かすように言うのを見たならば、驚異の光景を見るだろう。

94 復活の日にかれらは言われるのである。「今日、あなたがたはわれらのもとへ一人ずつやって来た。財産も地位もなしである。われらがあなたがたをこの世に生まれさせた最初のときのように、裸足かつ丸裸、割礼なしの状態である。あなたがたの意に反してわれらが生前あなたがたに与えたものも置き去りにして来るしかなかった。あなたがたのための仲介者だと言い張っていた、あなたがたの神々の姿が今日見られないのはどうしたことか。かれらはアッラーと等しく崇めるに相応しいと言い張っていたではないか。あなたがたの間のつながりは断ち切られたのである。あなたがたが生前アッラーと並ぶ存在だからと執り成しを主張していたものは消え去ったのだ。」

本諸節の功德:

- 預言者に啓示の書を下すのは、使徒を遣わすうえでのアッラーの慣行であり、預言者ムハンマドもその一人である。
- 最大の嘘つきはアッラーに対して嘘をつく者であり、アッラーの権利に関して正しい証拠なしに何かを関係づけたり否定したり確定したりしようとする。
- 全ての人が復活の日には生前の地位や肩書なしに個別に困窮した状態で蘇らせられ、個別に清算を受けるのである。

* إِنَّ اللَّهَ فَالِقُ الْحَبِّ وَالنَّوَى يُخْرِجُ الْحَيَّ مِنَ الْمَيِّتِ وَمُخْرِجُ
 الْمَيِّتِ مِنَ الْحَيِّ ذَلِكُمْ اللَّهُ فَانِّي نُوَفِّكُونَ ﴿٩٥﴾ فَالِقُ الْإِصْبَاحِ
 وَجَعَلَ اللَّيْلَ سَكَنًا وَالشَّمْسَ وَالْقَمَرَ حُسْبَانًا ذَلِكَ تَقْدِيرُ
 الْعَزِيزِ الْعَلِيمِ ﴿٩٦﴾ وَهُوَ الَّذِي جَعَلَ لَكُمْ النُّجُومَ لِتَهْتَدُوا
 بِهَا فِي ظُلُمَاتِ اللَّيْلِ وَالْبَحْرِ قَدْ فَصَّلْنَا الْآيَاتِ لِقَوْمٍ يَعْلَمُونَ
 ﴿٩٧﴾ وَهُوَ الَّذِي أَنْشَأَكُمْ مِنْ نَفْسٍ وَاحِدَةٍ فَمُسْتَقَرٌّ وَمُسْتَوْدَعٌ
 قَدْ فَصَّلْنَا الْآيَاتِ لِقَوْمٍ يَفْقَهُونَ ﴿٩٨﴾ وَهُوَ الَّذِي أَنْزَلَ مِنَ
 السَّمَاءِ مَاءً فَأَخْرَجْنَا مِنْهُ نَبَاتَ كُلِّ شَيْءٍ فَأَخْرَجْنَا مِنْهُ
 خَضِرًا نُخْرِجُ مِنْهُ حَبًّا مُتَرَاكِبًا وَمِنَ النَّخْلِ مِن طَلْعِهَا قِنْوَانٌ
 دَانِيَةٌ وَجَنَّاتٍ مِنْ أَعْنَابٍ وَالزَّيْتُونَ وَالرُّمَّانَ مُشْتَبِهًا وَغَيْرَ
 مُتَشَبِهٍ انظُرُوا إِلَى ثَمَرِهِ إِذَا أَثْمَرَ وَيَنْعِهِ إِنَّ فِي ذَلِكُمْ
 لَآيَاتٍ لِقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿٩٩﴾ وَجَعَلُوا لِلَّهِ شُرَكَاءَ الْجِبَتِ وَخَلَقَهُمْ
 وَخَرَقُوا لَهُ وِبْنِينَ وَبَنَاتٍ بِغَيْرِ عِلْمٍ سُبْحَانَهُ وَتَعَالَى عَمَّا يُصِفُونَ
 ﴿١٠٠﴾ بَدِيعَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ أَلَيْسَ لَهُ وَلَدٌ وَلَمْ تَكُنْ لَهُ
 صَاحِبَةٌ وَخَلَقَ كُلَّ شَيْءٍ وَهُوَ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿١٠١﴾

95 本当にアッラーただお独りが種を割り、芽を出させ、
 核を割りヤシやブドウなどの木を出させ、人間やあらゆる
 動物を精子から出させるように死んだものから生きる
 ものを出させ、人間からは精子を出し、鶏からは卵を
 出すように生きるものから死んだものを出させるのであ
 る。これらを創ったのがあなた方を創ったアッラーであ
 る。多神教徒よ、かれの驚嘆すべき創造の御業を見てお
 きながら、いかにして真理から離れられるのか。

96 至高にして完全なかれこそは夜の暗闇から朝の光を
 分かつ御方であり、かれこそは人々が糧を得るために活
 動する日中の疲れから休めるように、夜は動きを休める
 落ち着いたものとされた御方であり、かれこそは太陽と
 月を一定の計算で動くものとされた御方である。言及さ
 れた驚嘆すべき創造の御業は、威力並ぶ者なく被造物
 全てにとって何が役立つかを知る御方のご計画である。

97 至高にして完全なかれこそは、アダムの子孫よ、あ
 なたがたのために天に星を創ってくだり、陸や海の旅
 をする中で道に迷ったとき道しるべにできるようにされ
 た御方である。われらはわれらの力を指し示す証拠の数
 々を明らかにした。そうした証拠をよく考察し、役立つ
 ことのできる民にとってである。

98 至高にして完全なかれこそは一つの魂、すなわちあ
 なたがたの父祖アダムからあなたがたを創った御方
 であり、土からあなたがたの父祖を創ることであなたが
 たの創造を始めた。それからあなたがたをかれから造
 り、母親の子宮のようにあなたがたが落ち着く場を造
 り、父親の腰のようにあなたがたが置かれる場を造った
 のである。われらは確かにアッラーの言葉を理解する民
 のために、様々な印を明らかにした。

99 至高にして完全なかれこそは天から水すなわち雨を
 降らせ、それを通して植物の全ての種類を育てる御方
 である。そして植物から穀物や緑葉樹を茂らせ、それから
 穂に生じるような互いに交配する種を生じさせ、ナツメ
 ヤシの木の頭花から立っているものも座っているものも得られるような近いところに散房花序を生じさせ、葡萄の庭園を茂らせ、オ
 リーブとザクロを葉は似ても実は異なるものとして生い茂らせた御方である。人々よ、つき始めの実や熟れるころの実をよく見てみ
 よ。本当にそこには、アッラーを信じる民にとってはそのお力を示す明らかな証拠があり、かれらこそこれらの証拠から教訓を得る
 者たちなのである。

100 多神教徒はジン(幽精)が損得を生じさせようと思ひ込み、ジンをアッラーに並び立つものとして崇めるようになった。かれらを
 創造したのはアッラーであり、ほかの誰が創造したわけでもなく、かれこそが崇められるにより相応しい存在であるにもかかわらず、
 である。またかれらはユダヤ教徒がウザイルとし、キリスト教徒がイーサーとしたように神の息子について、多神教徒が天使た
 ちをその娘としたように意見を違えさせた。虚偽の民がかれを描写することから、かれは無関係で遠くかけ離れたところにある。

101 至高にして完全なかれこそは前例なしに成し遂げた天地の創造者である。伴侶もいないのに、いかにしてかれに子供などあり
 得ようか。かれが全てを創ったのであり、全てを知る御方であって、何一つかれには不鮮明なことはない。

本諸節の功德:

●創造と糧(植物の創造と成長、形と大きさの変化と雨の降水)という論拠による証明と、動き(諸惑星の運行とその軌道の統制と秩
 序)という論拠による証明は、二つとも明らかに見て取れるものであり、至高にして完全なアッラーだけが神であることを証明して
 いる。

●ジンを崇める多神教徒の迷妄ぶりと理知的な愚かしさの説明。

ذَلِكُمْ اللَّهُ رَبُّكُمْ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ خَلَقَ كُلَّ شَيْءٍ فَأَعْبُدُوهُ
 وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ وَكِيلٌ ﴿١٤١﴾ لَا تَدْرِكُهُ الْأَبْصَارُ وَهُوَ
 يُدْرِكُ الْأَبْصَارَ وَهُوَ اللَّطِيفُ الْخَبِيرُ ﴿١٤٢﴾ قَدْ جَاءَكُمْ
 بَصَائِرُ مِنْ رَبِّكُمْ فَمَنْ أَبْصَرَ فَلِنَفْسِهِ وَمَنْ عَمِيَ فَعَلَيْهَا
 وَمَا أَنَا عَلَيْكُمْ بِحَفِيظٍ ﴿١٤٣﴾ وَكَذَلِكَ نُصَرِّفُ الْآيَاتِ
 وَلِيُقْوُوا ۚ دَرَسْتَ وَلِنَبِّئَنَّهٗ وَلِقَوْمٍ يَعْلَمُونَ ﴿١٤٤﴾ أَتَسْبَحُ
 مَا أُوحِيَ إِلَيْكَ مِنْ رَبِّكَ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ وَأَعْرَضَ عَنِ الْمُشْرِكِينَ
 ﴿١٤٥﴾ وَلَوْ شَاءَ اللَّهُ مَا أَشْرَكُوا وَمَا جَعَلْنَاكَ عَلَيْهِمْ حَفِيظًا
 وَمَا أَنتَ عَلَيْهِمْ بِوَكِيلٍ ﴿١٤٦﴾ وَلَا تَسُبُّوا الَّذِينَ يَدْعُونَ
 مِنْ دُونِ اللَّهِ فَيَسُبُّوا اللَّهَ عَدْوًا بِغَيْرِ عِلْمٍ كَذَلِكَ زَيَّنَّا لِكُلِّ أُمَّةٍ
 عَمَلَهُمْ ثُمَّ إِلَىٰ رَبِّهِمْ مَرْجِعُهُمْ فَيُنَبِّئُهُمْ بِمَا كَانُوا يَعْمَلُونَ
 ﴿١٤٧﴾ وَأَقْسَمُوا بِاللَّهِ جَهْدَ أَيْمَانِهِمْ لَئِنْ جَاءَتْهُمْ آيَةٌ لَيُؤْمِنُنَّ
 بِهَا قُلْ إِنَّمَا الْآيَاتُ عِنْدَ اللَّهِ وَمَا يُشْعُرُكُمْ أَنهَا إِذَا جَاءَتْ
 لَا يُؤْمِنُونَ ﴿١٤٨﴾ وَتَقَلَّبُ أَفْعَادُهُمْ وَأَبْصَرَهُمْ كَمَا لَمْ
 يُؤْمِنُوا بِهِ ۗ أَوَّلَ مَرَّةٍ وَنَذَرَهُمْ فِي طَعْنِهِمْ يَعْمَهُونَ ﴿١٤٩﴾

141 人々よ、そうした特徴を持つのがあなたがたの主であり、**かれ**のほかにあなたがたにとっての主はなく、本当に崇拝に値する対象はないのである。**かれ**こそが全てを存在させた御方なのだから、**かれ**だけを崇めなさい。**かれ**こそが信仰行為を捧げるに値する御方であり、全てのものを守る御方である。

142 **かれ**を視線が覆うことはないが、**かれ**は視線を掌握し、覆いきることができ、敬虔な僕たちに優しく、万事に精通した御方である。

143 「人々よ、明らかな証拠の数々があなたがたの主からやって来たはずです。よってそれらを理解して従った人はそれらの益を得られますが、それらが見えずに理解せず、従わなかった人は、その害を自分でこうむるだけです。わたしはあなたがたの行いを全て把握する監督者ではありません。わたしの主に遣わされた使徒に過ぎないのです。**かれ**こそがあなたがたの監督者です。」

144 アッラーのお力に関する明白な証拠を様々な形で示したように、その吉兆それぞれのお約束や訓戒に関しても様々な印を示すだろう。多神教徒は言うだろう。「これは啓示ではない。以前の啓典の民から学んだことだろう」と。**われら**はこれらの印を様々な形で示すことで真理を人々に明らかにした。ムハンマドの共同体の中でも、信者こそは真理を受け入れて従う者である。

145 使徒よ、主があなたに啓示した真理に従いなさい。**かれ**こそは完全な御方であり、本当に崇拝に値する存在は**かれ**の他にないのである。だから不信仰者とその頑固さを氣にしているのではない。かれらのことは、アッラーにお任せすればよい。

146 万が一アッラーがかれらに他の誰も崇めないようお望みになれば、誰も**かれ**に別のものを並べ立てたりはしなかっただろう。使徒よ、**われら**はあなたを全て監督者とした

たわけではなく、評価者としたわけでもない。あなたは使徒であり、あなたの責任は伝達することだけなのである。

148 信者よ、多神教徒がアッラーと共に崇めている偶像の悪口を言ってはならない。たとえそれらが最も軽蔑に値するようなものであったとしても、完全な**かれ**に相応しいものを知らないために多神教徒が仕返しでアッラーを罵らないように。かれらに自分たちの迷いの状態が美化されたように、**われら**は全ての共同体にとって自分たちの行いを良くも悪くも美化されたものとした。**われら**がかれらに美化したものを持って来てみなさい。それから復活の日には主の御許がかれらの帰りどころであり、**かれ**はかれらがこの世で行っていたことを知らせ、それに応じて報いられるのである。

149 多神教徒はアッラーにかけて誓いを立て、できるだけ激しい誓約をした。「もしムハンマドがわたしたちの注文した印を持って来たなら、それを信じただろう。」使徒よ、言いなさい。「印はわたしのもとにあって好きに下すわけではなく、アッラーの御許にあってお望みのときに下されるのです」と。信者よ、これらの様々な印がかれらの注文通りに来たとしても、信じるかどうかでわかるだろうか。むしろかれらは導きを望まないために頑固な反抗をし続けるだろう。

150 **われら**はかれらの心や視線をひっくり返し、真理に導かれるのとかれら自身を分かたせよう。かれら自身とクルアーンへの信仰を最初から頑固さのせいと別々に分けたように。そして**われら**はかれらを迷いの中で主への反抗によって混乱するままに放っておくだろう。

本諸節の功德:

- 強制的な運命論が深めたがる不義はアッラーに無関係である。僕たる人間の不信仰や多神教崇拝はかれらの選択で生じることの説明。
- 預言者の誰にも印を自分でもたらすことも好きな時にもたらすこともできず、アッラーに帰結されることである。かれにだけはそれが可能であり、かれこそは印の種類やその開示の時間を定める英明な御方である。
- 多神教徒の神々を罵ることの禁止。万物の主を罵るという一線を越えた、より大きな罪に注意してのことである。
- 至高にして荘厳なるアッラーは時として僕たる人間と導きの間を分かたせることもある。視線や心を忠誠とは別のところへ逸らしてしまうこともある。不信仰という選択をした罰としてのことである。